

# 沖由也の履歴・目次

-----平成19年(2007年)5月20日現在

## < 幼児・学生時代・・・24年 >

出生・就学前・・・ 昭和14(1939) 5月4日誕生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  
小学生時代・・・ 昭和21(1946) 7歳(小学1年。吉野小学校。八幡小学校)～・・・  
中学生時代・・・ 昭和27(1952) 13歳(中学1年。世田谷区立八幡中学校)～・・・  
高校生時代・・・ 昭和30(1955) 16歳(高校1年。都立新宿高校)～。紀伊国屋書店  
浪人生時代・・・ 昭和33(1958) 19歳(浪人)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  
大学生時代・・・ 昭和34(1959) 20歳(大学1年。国立東京大学)～。東北新社・・・

## < 新米・社会人になる・・・3年 >

サラリーマン研修生1年間・・・・・・・・・・・・・・・・ 昭和38(1963) 24歳。日本電気・・・・・・・・  
退職。フリーター(自由業)の時代・・・・・・・・ 昭和39(1964) 25歳。学研・・・・・・・・  
テレビ・映画プロダクションの時代・・・・・・・・ 昭和40(1965) 26歳。TBS・・・・・・・・

## < 新米「冒険家」になる・・・2年 >

オートバイでアフリカ冒険旅行の時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  
昭和41(1966) 27歳～。日刊スポーツ新聞社。日刊スポーツ出版社。毎日新聞

## < 新米・編集者になる・・・5年 >

出版企画・編集プロダクションの編集長時代・・・ 昭和43(1968)29歳～。河出。中央公論  
結婚・出産・育児の時代・・・・・・・・ 昭和46(1971) 32歳～・・・・・・・・

## < ニューヨークで新米・料理店経営者になる・・・半年間 >

逗子移転後、単身ニューヨークで生活。日本料理店のマネージャー時代・・・・・・・・  
昭和48(1973) 34歳

## < 編集プロダクションの経営・・・20年 >

出版企画・編集生活に復帰した時代・・・・・・・・・・・・・・・・ 昭和49(1974) 35歳～  
編集プロダクションの経営者時代始まる・・・・・・・・・・・・・・・・ 昭和51(1976) 37歳～  
第三アートセンター社長時代が始まる・・・・・・・・・・・・・・・・ 昭和54(1979) 40歳～

## < 高知県へ「ターン」。絵画制作に熱中する時代・・・13年 >

高知県四万十市(旧中村市)名鹿へ事務所移転・・・・・・・・ 平成6(1994) 55歳～  
出版編集から「問題語評論」と「絵画製作」に専念・・・・・・・・ 平成12(2000) 61歳～  
パソコンとハンディカムと絵画の時代・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成17(2005) 66歳～

## < 著書・訳書など >

『燃える！ 白いアフリカ』1967 『日本ピラミッドの謎』1975 『神武天皇 = 徐福の謎』1977  
『ビジネスマンのための開き直り健康法』1988 『問題解決強化書』1991  
『ダイナミック自己啓発法』1992 『ニュートンの知恵』1994 CD『アフリカ大陸オートバイ冒険旅行』2005  
ほかに、小説・実用書・女性週刊誌の代筆・アンカー、テレビ・雑誌の取材・撮影、漫画の立案、図鑑・事典・全集の構成・執筆・撮影・イラストなど。

# 沖由也の履歴

平成19年(2007年)5月20日現在

## < 家族の構成 > は死亡(2007年5月現在)。

兄弟は腹違いを入れて、8人以上になる。「以上」という意味は、父・為由がロンドン勤務時、「現地妻」との間に、子(娘?)が「1人以上いる」、と確実視されているためである。

父・沖為由:1885・3・3～1958・4・28。73歳死。高知県四万十市(旧・中村市)出身。一橋大学(旧・東京商大)卒。商社(丸石商会。ロンドン支店)、英語教師など。

母・沖千枝:1900・4・28～1961・2・24。61歳死。後妻。熊本県八代出身。

長女・岡添博子(1914～1996。82歳死。為由の先妻マサ(24歳死)の娘。徳助妻。2男2女。ちなみに、このマサ(岡添政)は、宿毛出身で、林譲治(林有造の息子。吉田茂のいとこ筋で、副総理を務めた)の姻戚である。譲治は父の友人だった。

次女・附柴千津:1925・10・7～。公認会計士・正躬妻。3女。仲人は林譲治。

三女・百瀬美津:1927・6・20～。元東大史料編纂所教授・今朝雄妻。歌人(俳句雑誌『般若』主宰)。1男1女。

長男・沖由朗:1929・10・13～1936・8・22。7歳病死。

次男・沖祐之:1932・6・4～1996・2・17。64歳死。東大理工科卒。カメラ設計(リコー35など)、ニューヨークで日本料理店、ロサンゼルスで不動産業。無子。

三男・沖恒夫:1936・8・13～。東京外語大仏文科卒。詩人(詩集『メランジュ』)。印刷所、翻訳、警備員。1女。

四男・沖由也:1939・5・4～。東大教養学科アメリカ分科卒。日本電気、フリーランサー(テレビ、女性週刊誌、新聞、映画、セールス)、翻訳(テレビ洋画)、アフリカ冒険、出版企画・編集専門会社・第三アートセンター社長、趣味は絵画。2女。孫なし。ペンネーム:永井利秋、大木一也、弘瀬雄、joshua Okiなど。

五男・沖貢:1943・1・18～。都立園芸高校卒。カナダ・トロント在。レタリング、看板業。トロント日本人会の幹事。4男1孫。

## 出生・就学前

昭和14(1939) 0歳。5月4日、和歌山県有田市箕島に生まれた。父が英語教師として赴任していた地である。この年は、世界中が戦争を始めた年で、その6年後、戦争が終わってから小学校に入学したことになる。

出来事 = 5月、ノモンハン事件 / 9月、独軍、ポーランド侵略。第二次世界大戦勃発 / 日本では、前年3月、東條英機首相が、国家総動員法を制定。

昭和15(1940) 1歳。親子7人(腹違い 死亡 未生、除く)で、和歌山に1年。ミカンの食べすぎで黄疸になった、という話は、ややマユツバ。

出来事 = 9月、日独伊三国同盟 / 10月、大政翼賛会発足 / 11月10日、紀元2600年記念祝典。皇居前広場に5万人。

昭和16(1941) 2歳。東京都世田谷区奥沢3 - 35の二階家に移転。東京に3年。このころの記憶は皆無。まさか、日本が大国アメリカに戦争を仕掛けていたとは……。

出来事 = 国民学校誕生 / 12月、真珠湾攻撃 = 太平洋戦争始まる。

昭和17(1942) 3歳。このころの記憶もない。全世界が大殺戮時代に突入していることも、日本が壊滅し始めていることも、知る由もなかった。

出来事 = 1月、ユダヤ人1100万人の殺害開始。食塩の配給実施 / 2月、衣料切符制実施 / 6月、ミッドウェイ海戦で敗北。以後、負け戦続く。

昭和18(1943) 4歳。1月、弟・貢生まれる。負け戦が続いていても、親は「産めよ増やせよ」だったらしい。思えば、祐之兄は五一五事件の年、恒夫兄は二二六事件の年、私は世界大戦勃発の年に生まれた。とすると、私たち兄弟は、「天皇の赤子(せきし)」だったとも言えるし、情報閉鎖時代の「祝福されない子」だったとも言えるだろう。

出来事 = 2月、ガダルカナル放棄 / 9月、イタリア、無条件降伏 / 10月21日、出陣学徒壮行会。明治神宮外苑競技場で。

昭和19(1944) 5歳。戦況悪化のため、父・姉3人を東京に残して、母と兄弟4人の5人で、母の郷里・熊本県八代に疎開した。思えば、この2年間の疎開のおかげで、東京大空襲の被害(原爆なみの死亡者)を免れることができた。

出来事 = 6~8月、サイパン、グアム、テニアン全滅 / 6月、疎開命令。連合軍ノルマンディー上陸 / 11月、B29の空襲本格化。1回200機以上。

昭和20(1945) 6歳。崖と水田の間の二階家、自宅前の公園と川、桑畑の広がりやグミの味、尼さんの寺、サーカスのテント、誉められた絵日記、などの断片的な記憶。

出来事 = 3月、東京大空襲。台東・墨田・江東・江戸川で約5万発の焼夷弾。死者8万人 / 4月、新宿・豊島・文京・渋谷で空襲。米軍、沖縄上陸。ヒトラー自殺 / 5月、独、無条件降伏 / 8月6日、広島、9日、長崎に原爆投下 / 8月15日、ポツダム宣言受諾、敗戦 / 10月、国連発足。

## 小学生時代

敗戦による食糧難や生活苦は、幼児の心を苦しめたりはしない。むしろ、助け合いや連帯感や友情、あるいは努力・勤勉の意味などを教えてくれる。そして、大人の行動(戦争責任も含めて)は、反面教師として、小学生の批判精神を育てたように思われる。

ちなみに、私は「終戦」という無責任な言葉が嫌いである。当時の日本軍および日本国民は、明らかに「大東亜戦争・侵略や真珠湾攻撃を仕掛けて、敗れた」。だから、意識してでも「敗戦」という言葉を使わないと、真実の歴史を隠してしまうことになる、と考えている。

昭和21(1946) 7歳(小学1年)。4月、熊本県八代の吉野小学校に入学。敗戦後、第1号の入学生となる。4～5キロ歩いて通学した思い出がある。夏、姉2人が迎えに来て、東京へ戻り、以前暮らしていた世田谷区奥沢で家族が再会した。2学期から、世田谷区立八幡小学校に転校した。東横線の自由ヶ丘・田園調布の間にある線路沿いの学校で、校庭に桜の大木。担任は佐藤精先生(ひげのヤギ先生)。

出来事 = 1月1日、天皇の人間宣言 / 5月、第1次吉田内閣発足 / 5月、極東軍事裁判開廷 / 7月、ビキニ原爆実験 / 11月3日、日本国憲法公布。

昭和22(1947) 8歳(小学2年)。担任・渡辺(大和)利子先生。

このころから、じんましんを発症。顔が腫れて登校できないこともあった。母が喘息もちだったので、アレルギー体質が遺伝したらしい。貧乏ともども「不条理認識」の始まり。

出来事 = 1月、GHQがゼネスト中止命令 / 7月、菊田一夫『鐘の鳴る丘』、近江俊郎『山小屋の灯。ラジオ娯楽の全盛』 / 8月、インド独立宣言。

昭和23(1948) 9歳(小学3年)。上野動物園へ遠足。このころ、二階に寄宿していた森尾昇夫妻(父方の親戚)から「養子にならないか」と勧められたが、拒否した。日曜日、田園調布の平安教会で、「天にまします、われらの父よ～」と唱えた記憶がある。

出来事 = 1月、ガンジー暗殺 / 5月、イスラエル成立 = 第1次中東戦争 / 8月、韓国(李承晩)、9月、北朝鮮(金日成) / 12月、東条英機ら37人絞首刑

昭和24(1949) 10歳(小学4年)。稲毛海岸・野猿峠へ遠足。このころは車酔いが激しく、バス旅行には「沖専用バケツ」が必要だった。だが、体質ハンデによって精神まで病的だったわけではない。むしろ、「畜生。いつか克服してやる」という“復讐心(呪い?)”を抱いていた。当時の私を、恩師(内田)はこう述べている(『あしあと』より)。

「(乗り物に酔う)筆頭は何といっても沖君。見学の時ちょっと電車に乗っても青い顔をして一言も発しない。それでも「だいじょうぶか」というと、首をたてにふって……」

出来事 = 5月、ベルリン封鎖解除(西独と東独成立) / 8月、古橋・橋爪世界新記録 / 10月、中華人民共和国 / 11月、湯川秀樹ノーベル賞。

昭和25(1950) 11歳(小学5年)。このころ、二部授業。新担任・内田太郎先生。観音崎灯台・高尾山・交通博物館へ遠足。11月からパン完全給食。田園調布でスピッツ2匹の散歩アルバイト(初)。漠然と、お金を稼ぐ喜びを知った。当時は貧しく、奥沢駅の売店で、漫画本1冊を万引きして、喉から心臓が飛び出しそうな体験をした。空缶に小遣いをためて納屋に隠し、「独立(家出)資金？」にしようと計画したこともある。また、性にも目覚め、『デカメロン』などの性風俗雑誌や春陽堂文庫などを盗み読んだ。

出来事 = 2月、米でマッカーシー旋風 / 6月、朝鮮戦争勃発 = 特需景気 / 8月、警察予備隊令公布 / 11月、NHKテレビ実験。

昭和26(1951) 12歳(小学6年)。日光・鎌倉・東京港・大相撲見学。世田谷区玉川中町に家族8人で移転(平屋)。大井町線(のちの田園都市線)で等々力～尾山台～九品仏～自由ヶ丘の4駅通学。転校生・上田誠君の母親に頼まれて、家庭教師。学力差をなくしてあげようという温情だったが、結果として2回目のアルバイトになった。

出来事 = 4月、マッカーサー解任。24日、桜木町事件で、99名焼死 / 9月、対日講和条約(日米安保調印)。

## 中学生時代

恋に芽生え、情緒不安定な思春期だった。兄弟が6人もいると、「狭いながらも楽しい我が家」という気分にはなれない。孤独癖もあった。だから、できるだけ早く兄弟から離れて独立したい、そのためには、何か「大切な支柱」を得たいという気分が強かった。

昭和27(1952) 13歳(中学1年)。新しくできた世田谷区立八幡中学校(九品仏)に入学。小学校から椅子を運んだり、校庭の麦畑を開墾したりした。等々力の自宅から2駅の距離を徒歩通学した。片道1時間弱を要したが、苦痛ではなかった。むしろ、歩きながら、何かを考えたり、作曲(?)していたという記憶がある。

出来事 = 5月、皇居前で血のメーデー事件 / 10月、保安隊発足。

昭和28(1953) 14歳(中学2年)。尾山台で私立小学生の家庭教師をした(3回目のアルバイト。翌年まで)。麻布中学に入りたい、との希望だった。

このころから、同級生の女子から寄せられたラブレターがトランク一杯くらい。新宿高校・東大など、進学や将来の夢を語り合う。手も握ら(れ?)なかった関係だったのに、噂が広がり、意地悪もされた(交換していたラブレターを教室の後ろに貼られる、など)。体は弱かったが、負けん気やプライドは強かった。休み時間が終わっても、運動場で取っ組み合いのけんかをしていて、窓から全校生に声援された記憶もある。

出来事 = 2月、NHKでテレビ放送開始、吉田首相、バカヤロー解散 / 3月、スターリン死去 / 7月、朝鮮休戦協定。

昭和29(1954) 15歳(中学3年)。学年サークルで、協同作品『散所太夫』のカラーライド・録音テープ(音楽つき)を作成。九品仏浄真寺の庫裏に集まって打ち合わせたりした。当時は学校と寺の間に池があった。物語を絵にして、スライドに1枚1枚、細筆とカラーインクで手描きした。後日、こうした細密画の経験がメシの種になった。

以下、 は、私が研究・上演・執筆・作画・編集などをした「創造的な行動」を示す。

出来事 = 3月、第5福竜丸、ビキニ水爆被災 / 6月、防衛庁・自衛隊発足。

## 高校生時代

にきびコンプレックス、受験勉強の不安、アルバイト(労働)など。思春期は、「乗り越えるべき、美しいバラの柵」だったのか。不安と緊張の連続で、快い思い出は少ない。

昭和30(1955) 16歳(高校1年)……………「広がる世界」

東京都立新宿高校に入学。等々力～自由ヶ丘～渋谷～新宿と、2駅乗り換えて通学。電車酔いに悩まされた。テニス部。新宿御苑に隣接していたので、塀を越えて弁当を開いたりした。赤線旅館も隣接していて、校庭によくコンドームが落ちていた。新宿南口周辺には、映画館、馬券販売所などがあり、遊び人や浮浪者がたむろしていた。

映画が好きだったので、3階の「テッペン座」によく通った。姉から映画の株主優待券をもらい、浅草や渋谷で2、3館回り、3本立て西部劇などを観て、1日中費やしたこともあった。当時、立川基地で砂川闘争が始まっていたが(～57年)、まだ政治意識は薄かった。

出来事 = 4月、アジア・アフリカ会議 / 5月、ワルシャワ条約 / 8月、第1回広島原水禁世界大会 / 10月、社会党統一大会 / 11月、自民党結成。

昭和31(1956) 17歳(高校2年)……………「勉強と労働」

文化祭で 加藤道夫作『思い出を売る男』を上演。自己表現には関心があった。同級生に、遠藤(中村)敦夫(のちに俳優、議員)、秋吉輝男(のちにヘブライ語教授)など。

このころから本格的にアルバイトを始めた。当時は設備投資ブーム(神武景気)で、苦学生には良き時代だった。放課後、秋吉と新宿紀伊国屋二階の洋書部に「勤務」した。5時から9時。等々力の帰宅は10時過ぎだった(翌年まで)。駅前の寿司屋で折り詰めを買い、喘息で悩む母への土産にしたこともあった(ついでに、喘息用の注射も頼まれたが)。

夏休みには、新宿大久保のスポンジ工場で、「ブラパット(乳当て)」を製造手伝い。姉にもプレゼントした。家庭教師は、尾山台(男子中生)と学芸大学(女子中生)のかけもち。

このころ、担任から病院長の娘との養子縁組の話があった。一時はその気になり、ドイツ語を学び始めたが、断念した。美術部に入り、東京芸大受験を真剣に考えたりもした。美術部顧問の先生は、のちに個展を開くなどの精力家だったが、やや馴染めなかった。

出来事 = 2月、フルシチョフのスターリン批判 / 5月、売春防止法 / 10月、ハンガリー事件、スエズ(第2次中東)戦争 / 12月、日本の国連加盟承認  
ちなみに、兄2人は赤線体験があるが、私はタッチの差で経験なし。

.....  
**昭和32(1957) 18歳(高校3年).....「仮説実験」**

俳優・石浜朗によく似た友人の同級生が代官山から通っていたが、自殺した。また、兄・恒夫がビル屋上から自殺未遂の事件を起こした。ちなみに、このころ兄弟間で真剣に人生論を交わすことは少なかった。尾山台と学芸大学の家庭教師は続いていた。

**< ささやかな冒険旅行 >**

修学旅行の積立金を下ろして、仲間4人(秋吉輝男、沖、河村宗郎、半田敏雄)で、九州一周旅行を実行。東京～京都～出雲～福岡～鹿児島～別府～(船)～広島～大阪～東京。約10日。宿泊はほとんど夜間鈍行列車の車中泊。京都は私の親戚宅、広島は秋吉の親戚宅に泊まった。桜島では小学校に泊めてもらった。

みな好奇心があり、常識に反逆し、自由や冒険に憧れ、仮説を立てて可能性を試そうとする実験精神が旺盛だった。その後、秋吉は学者に、河村(柔道部のキャプテン)は商社マンに、半田は皮の輸入業者におさまった。その後、付き合い続けたのは、秋吉だけ。

出来事 = 1月、南極に昭和基地 / 6月、岸首相訪米 / 10月、ソ連、人工衛星スプートニク打ち上げ / 11月、東海村原子炉始動。なべ底不況始まり、翌年末まで。

**浪人生時代**.....

受験に失敗しても、特に悲壮感はなかった。学歴偏重社会には、むしろ批判的だったからである。“反修学旅行”もそうだが、横並びの考え方や生き方には、意識的に反発していた。今も私は、「教育の真髄は批判精神だ。教師をも批判できる教育」を願っている。

**昭和33(1958) 19歳(浪人).....「与えられた休暇」**

東大受験に失敗。一期校のみで、二期校や私大は受験しなかった。

父・為由が脳出血死。73歳。梅の木を剪定していて、梯子から落ちた。年齢が54歳離れていることもあり、感慨はなかった。「1人の老人の呆気ない死」という印象だった。

アルバイトに、毎朝、2駅先の九品仏まで行き、全酪連牛乳の配達をした。この店には、同級生の小島聖二君が勤務していた。配達が多摩川の土手まで。坂がきつかった。

同級生・赤井(柴田)陽子がブラジルから帰国し、等々力に住んだことから、第2人の家庭教師を頼まれた。一方、自宅では姉・美津の学習塾を手伝った。

受験勉強は、静岡の学力増進会(通信添削)と等々力駅前の図書館。読書は、『出家とその弟子』『チャタレイ夫人の恋人』『西部戦線異状なし』など。映画館は、自由ヶ丘の南風座、武蔵野館など。映画『第三の男』は兄・祐之と観に行った。

出来事 = 6月、ドゴール内閣成立 / 7月、イラクでクーデター。共和制 / 10月、安保条約改定交渉開始 = 安保闘争開始。

## 大学生時代

「収入」が増え、生活力や体力に自信ができた時代。エルビス・プレスリー、ジェームス・ディーン、怒れる若者 (Angry Youngmen) などの影響もあって、社会批判・反逆の気分が強かった。とくに、60年安保によって、日本が「アメリカの植民地(妾、愛人)」になるのではないか、これから「奴隷の平和」を楽しめるのか、などと国家の針路を危惧していた。一方、宗教や美術などにも関心が強くなり、関係者によく論争を挑んだ

### 昭和34(1959) 20歳(大学1年)……………「自己改造・初体験」

東京大学文科二類に入学した。

担任は増田義郎。サークルは、テニス部、美術部、のちに空手部にも入部した。

意識的に体力増強 (= 病的体質の改善 = 遺伝への復讐?) を図り、等々力駅前の柔道道場 (俳優・小林旭が通っていた道場) にも通った。だが、兄・祐之との取り決めで、兄弟で家計費を分担することになり、スポーツに十分打ちこむわけにもいかなかった。

家庭教師は、山手線・東大崎の美容院 (小学生) と寿司屋 (早稲田受験生) の2軒を掛け持ちし、帰宅はいつも夜11時過ぎだった。美容院一家とは、家族ぐるみで長野の鹿教湯温泉へ湯治に行ったり、見習い美容師さんと「公認デート」をするなど、和気あいあいのバイト生活が2年以上続いた。

出来事 = 1月、キューバ革命。EEC (欧州経済共同体) 実施 / 4月、皇太子・美智子結婚 / 11月、安保阻止第8次統一行動、デモ隊国会構内に突入。

### 昭和35(1960) 21歳(大学2年)……………「自立・独立」

奥沢2丁目 (自由ヶ丘近く) の一軒家に、初めて下宿した (3畳)。父の死いらい、家を売却処分する話があり、兄弟間には「独立すべし」のムードが強かった。

この下宿の女主人に見合いを勧められ、やむをえず相手の女性と喫茶店で会った。しかし、自主性のない無感動なお嬢さんだったため、すぐ終わりにした。高校時代から、どうも見合い話が多い。貧乏や苦学に自己陶醉している姿が、同情を買ったのかもしれない。

初めての自立自活は楽しかった。ステレオやレコードを購入。プレスリー、シル・オースチン、アーサー・キット、ディーン・マーチンなどのLP盤をよく買って、聴いた。

英語習得のため、モルモン教会 (中目黒) で聖書研究会に通った。創価学会も研究した (兄・恒夫が入信した関係で)。柔道は体力不足が不利なので、空手に変更。東急空手道場 (田園調布・田園コロシウム内) に通ったりした。このころ、ハイキング登山が流行していて。日光、足尾、塩山、箱根 (金時峠)、谷川岳などを歩いた。

数年前に死亡した同級生・小宮珠子の母が草月流の師範だったので、同級生・富岡節朗とともに、活け花を習いに行った (青山学院の裏)。「師範免状をおとりなさい」と言われ

たころ、勅使河原蒼風にオブジェの未来性などを訊ねる手紙を書いたが、やんわりあしらうような返事もらった(緑インクの返信手紙が面白かった)。

東大駒場祭で サルトルの戯曲『恭しき娼婦』を上演した。演出・美術・パンフレット作成・広告取り・脇役などを務めた。このとき上院議員を演じた藤田太寅は、のちにNHKの解説委員になった。劇よりも、サルトル研究の時間が楽しかった。

当時の私はノンポリ学生だったが、樺美智子追悼デモには参加した。概して、流行や社会運動よりも原理原則を尊重する傾向が強く、トインビーの文明論やサルトルの実存主義に傾倒していた。これらの思想は、40年以上経った今の私にも影響を与えている。

出来事 = 6月、安保阻止統一行動に560万人。全学連国会突入で、女子学生死亡。新安保条約自然成立 / 10月、浅沼委員長刺殺 / ケネディ当選。

昭和36(1961) 22歳(大学3年)……………「さよなら両親」

教養学科アメリカ分科に進級。担任・中屋健一。本郷へは数科目のみ受講し、ほとんどは駒場に通った。駒場寮仲間とはよく麻雀したり、渋谷の地下トリスバーなどで飲んだ。寮まで朝帰りすることも多かった(朝の豆腐屋で酔い覚ましも)。

課題の読書は、シャーウッド・アンダーソン、フォークナー、メルビルなど。アメリカにも、難解だが、実験的で、サルトルにも通じる、社会批判的な作品があることを知った。

中屋先生の推薦で、アメリカ大使館婦人クラブから奨学金(月3000円)をもらった。東大、京大各1人。ライシャワー夫人ハルさんらとの写真が、初めて新聞に載った。ほかに、日本育英会から同額を給付され、かつ、授業料免除だったので、生活はかなり豊かになった。東横百貨店で空気銃を購入し(約2万円)、雀を撃って、母と焼き鳥にしたことも。

母・千枝が、喘息の注射で死亡した。61歳。緑ヶ丘のブリキ屋二階(3畳3000円)に移転した。引っ越し2回目である。共同トイレ・共同炊事場。自炊可能だったので、炊飯器・冷蔵庫などを購入して栄養料理を工夫し、快適に暮らした。

出来事 = 4月、アイヒマン裁判。ライシャワー駐日大使着任 / 5月、韓国で軍事クーデター / 6月、ケネディ・フルシチョフ会談。池田首相訪米。

昭和37(1962) 23歳(大学4年)……………「言葉 = お金？」

就職先は、ソニー、三井物産、電通、日本電気など、外国事業部に先輩がいるところを狙っていた。当時は、まだ海外旅行ができない時代だったので、かえって外国にあこがれていたのである。その反面、(アメリカ大使館から奨学金をもらいながらも)学べば学ぶほどアメリカが嫌いになっていった。

卒論は、『アメリカの軍事援助と経済援助の関係』(英文タイプ)。大国の横暴や暴力を指摘する意図が強く、我ながら批判意識が過剰で、いい点数ではなかった。

< テレビ洋画の翻訳仕事を始める >

このころ、テレビ洋画の翻訳台本作成の仕事を、兄・恒夫から紹介された。以後、これが

メシの種になり、後日、フリーターになるきっかけにもなった。最初は、先輩の田畑稔に一次稿を収めていたが、すぐに一本立ちした。

新橋の東北新社で映画を観ながらテープに録音し、アパートで翻訳作業をした(30分ものなら1週間以内)。東大久保の東音スタジオでは、翻訳者としてアテレコ作業にも立ち会った。当時の人気声優は、愛川欽也、若山絃蔵、池田昌子など。

作品は、シリーズもの(『ダコタの男』『アウターリミッツ』『海に挑む男・アクアナット』)や深夜劇場の洋画(フレッド・アステア、ジンジャー・ロジャースもの)など、在学中に5、6本の台本を書いた。不完全ながらスクリプト(英文台本)があったので、翻訳の苦労よりも、日本語表現や時間合わせの工夫に手間がかかった。結局、言葉の勉強になった。

福岡朝日マラソンで、ニュージーランド選手・キーツの通訳をし、コクニー訛りに苦勞した。博多芸者パーティーでは、べらべらしゃべる優勝選手(米人)の通訳に難航し、赤恥。

このころ、兄・祐之が結婚した。このとき、妻・喜美子の夜間高校同級生の市毛幸子と親密になり、交際を開始した(1歳年上)。この2年後に同棲、9年後に入籍・出産、40年後に離婚となる。幸子の母とも、ほとんど同居することになった。

出来事 = 2月、東京都の人口1000万人突破 / 10月、キューバ危機。

## サラリーマン研修生1年間

就職してみて、自分が大会社向きでないことがよく分かった。それはまた、他人と同じことをしたくない(しても面白くない)という思いを強めることにもなった。

昭和38(1963) 24歳.....『すまじきものは宮仕え』

小学校の同級生、赤井(柴田)陽子の祖母が住む下宿に移転した(奥沢1丁目。奥沢駅と奥沢神社の近く)。これで引っ越し3回目になる。

洋画翻訳の仕事は継続していた。このころは、『カサブランカ』『ハワイアン・アイ』『名犬リンチンチン』『サンフランシスコ・ビート』など。

春、東大を卒業した(教養学士)。日本電気に入社し、武蔵小杉の工場に研修生として配属された。下宿近くの奥沢駅からは、数駅だった。

会社では、研修生用オートスライド『OH(Over the Horizon)システム』を作成した。青森県三沢、茨城県などのパラボラアンテナを出張取材したり、台本を書いたりした。技術論文の翻訳も担当。研修生としては、かなり充実した仕事をした、と今でも思っている。

出来事 = 9月、横須賀などで原潜寄港反対集会 / 11月、ケネディ暗殺。

## 退職。フリーター(自由業)の時代

社会は高度成長期に入っており、やる気と実力さえあれば、面白いように仕事ができる。時代が私を自由業に押しやった、とも言える。フリーターでも食える、という自信もあった。

## 昭和39(1964) 25歳……………「自由への逃走」

テレビで洋画翻訳者として私の名を見た者がいて、会社内でアルバイトがバレ始める。定時になると、さっさと新橋の東北新社スタジオへ直行する日が多かったためでもある。

一方、日本電気については、「電電公社・自衛隊・国鉄などからの天下りが多い半官半民体質の企業」と判明し、「軍需製品を作る特定機器工場(香港経由してベトナムへ)」にも反感を抱いた。また、先輩から命じられる「強制的なサービス残業」や同期入社生の「退職金の前借りを予定するようなマイホームプラン」などにも、反感や嫌気がさしていた。「棺桶を突っ込んだ」ような気分になり、退職を願い出た。

工場長がなかなか退職願を受理しなかったため、田町の本社まで行って、直接社長(渡辺武港)に直訴状を出し、上記のような不満をぶつけた。結局、円満退職。

九品仏の酒屋の二階に移転。引っ越し4回目である。3室の1室で市毛幸子と同棲し、他の1室に幸子の母と弟の2人を住ませた。それまで、市毛家族は三軒茶屋の親戚に居候していたので、私が「家族の自立」を勧めた結果である。幸子は、ここから京橋の味の素事務所に通ったが、私は無職だった。このころ、初めてテレビを購入した。

### < 個展開催。新しい交友と人脈 >

退職の理由の一つが「個展開催」だった。

自由ヶ丘の喫茶店・セシボンのママ(の母がテレビ『判決』の脚本家)と親しくなり、大学時代から描き溜めていた油絵を『石仏展』として発表した。大学時代の私は、飛鳥の石造物や伊藤若冲の石仏(京都石峰寺)に惹かれ、刺激を受けており、「奇妙な石」をテーマに描いたものが多かった。今でも、私の絵の中に亀石や猿石が登場する。

このとき観に来た、田畑稔の友人・弘瀬裕と知り合い、以後彼は、30年余り、文筆・仕事関係、酒・麻雀・女性関係などの「悪友先輩」となった。私より一回り上の年齢。鹿児島網元の息子で、金と女にルーズな「インテリ風遊び人」だったが、『女性自身』のアンカーとして重宝がられている、自称ライターだった。東亜同文書院に在籍していたことから(最後の卒業生?)、2人で松村謙三氏を訪れて、シルクロードの話をしたこともある。

弘瀬がまとまった文章(企画書など)を作るとき、私は彼の子分(ヨシャーチャン)として役立った。一方、私も、マスコミ関係に人脈が広がったので、彼を「重宝」した。

飲んだり夢を語るうちに、同志5人で「獺の会」を結成した。田畑稔(空手武道家)、鈴木一郎(文化人類学者・メキシコ)、小笠原弘(俳優)、そして、弘瀬裕と私。25歳の私は最年少だった。もっとも、会としての仕事はなく、ただ名刺を作って配っただけである。

このころから、俳優座、にんじんくらぶ(若槻繁社長)、日生劇場(二宮吉郎)、TBS テレビ、『女性自身』の分室などに入出入りした。ここは、トップ屋、ライター、アンカーがたむろする大部屋で、私も物珍しさで雑文を書いたり、麻雀に誘われたりした。

弘瀬は、以前浅草ロック座の芸能部で台本を書いていた「先生」でもあった。そこで、楽屋裏にもよくお邪魔して、裸のダンサーや小人の芸人らとコイコイ、チンチロリンを楽しんだり、下駄履き姿で舞台に出て、酒を振る舞われたりした(酒は初日のサービスだった)。

## <退職後の仕事>

イースタン観光社長・東京サマーランド社長・藤本威弘の海軍少尉時代の『ブーゲンビル戦記』をまとめた(光人社)。当時の軍曹の話聞きに、静岡まで取材したりした。初めてのゴーストライター(代理執筆)の経験だった。これも弘瀬に紹介された仕事。

威弘の義父・藤本軍次は F1レーサーで、その関係から、女性の F1レーサーとも知り合った。彼女は、大学の同級生・山田睦男(当時、アジア経済研究所・ラテン部)に紹介したら、すぐ結婚してしまった。

百科事典『ブリタニカ』24巻・24万円?のセールス(代々木支店で講習会)も経験したが、数セットだけ販売して中止した(1セットの客はお寺の僧侶だった)。

学研美術部(相川俊一郎部長)の嘱託も務めた。美術書の翻訳や企画を手伝う仕事だったが、常時私の席もあり、ほぼ準社員待遇だった。大森の本社へは半年通った。

出来事 = 8月、ベトナム、トンキン湾事件(米軍の介入開始) / 10月、東海道新幹線。第18回東京オリンピック開催 / 11月、佐藤内閣。公明党結成

## テレビ・映画プロダクションの時代

テレビ、週刊誌などのマスコミの仕事が多かったので、人脈や情報が増え、「仮説実験的な行動」も増えた。しかし、流行やスクープやゴシップを追ったりするような「虚業」の世界には馴染めなかった。つまり、当時の私は、定職がないくせに、意識だけは高かった時代である。それを支えたのは、この年に始まったイザナギ景気だったのかもしれない。

### 昭和40(1965) 26歳.....「映像ビジネス」

尾山台のアパートに移転した(武蔵工大校門の近く)。幸子とその母と私の3人で、弟たちは独立していた。これで5回目の引っ越しになる。

多摩川近くの畑地だったので、ジョギングしたり、庭に棒を立てて柔道着を巻き、拳から血が出るまで叩いたりした。自虐的なほど自分をいじめないと、体質改善できない、と信じていた。このころは、エネルギーがあまっていたに違いない。

## <テレビ・映画の企画・取材・撮影・編集に参加>

TBS報道副部長・岩部成仁(ブーさん)が独立して、赤坂乃木坂のマンションの一室で、映像プロダクション「BU - PRO」を設立した。私は、弘瀬に誘われて、これに参画した。ほかには、加藤カメラマン、小幡君、女性編集者など、総勢6~7名。

ここで、TBSの朝7時15~20分の『5分ドキュメント番組・この人この話』を制作した。レギュラーの女性インタビューアーは宮崎さん(仲代達矢の義理の妹)。私は、取材・交渉・撮影助手・編集などを担当した。『上野動物園訪問』『青山ケネル訪問』など。毎朝、TBS局裏のゴルフ練習場を通過して、編集したフィルムをデスクに届ける日が続いた。

BU PROの同人に宮島義勇カメラマンがいた。彼は、『人間の条件』『怪談』などの撮影者で「ミヤテン(宮島天皇)」と称された人物で、左翼系だった。このころ、日ソ青年友好

祭があり、記録ドキュメント『バイカルの誓い』を作成した。山中湖の友好祭運動会で撮影して、ミヤテンに誉められたこともある(輪の中で動きに合わせて撮影したこと)。

これは、カラーワイド35ミリの本格映画で、仲代達矢(ナレーション)、朝倉摂(美術)、芥川也寸志(音楽)ら左翼系芸能人と、赤坂の葵スタジオで同時演奏・録音した。

そのころ交際した映画・映像関係者は、牛山純一、小林正樹、若槻繁、岸恵子、杉山吉良、森繁泉など。

一方、「Kプロ」にも参加した。これは、TBS編成部長・高橋啓(ケイさん。東大の先輩)が兼高かおるの事務所として設立したもので、弘瀬と私は、社員として、テレビ企画や音楽著作権などの仕事を手伝った。時折りは、『兼高かおる・世界の旅』のダビング(ナレーション芥川)にも立ち会った。

秋川の東京サマーランド(藤本威宏が社長だった。前述『ブーゲンビル戦記』の縁)の企画にも、Kプロの一員として参加し、現地も取材した。弟・貢にも、サマーランドの仕事を紹介して、新宿南口のビルの上に広告塔を建設させたりした。

Kプロには、シンセサイザーの創始者 富田勲 や当時普及し始めたクーラー(GE)を販売する男(小柴。元電通。株大好き)などが出入りしていて、時代の先端情報を見聞することができた。

真鶴の旅館にクーラーを設置するついでに、弘瀬、元妻 東横デパート和服部、売り子などと、海水浴を楽しんだりした。当時は、参議院の議員会館(松村謙三)から浅草のストリップ小屋まで、仕事や行動の半径はかなり広がった。

出来事 = 2月、ジョンソン北爆開始 = ベトナム特需 / 6月、家永三郎教科書検定違憲訴訟。日韓基本条約 / 9月、印パ戦争 / 11月、文化大革命。

## オートバイでアフリカ冒険旅行の時代

テレビ・映画の仕事やバブル経済の風潮に不満や限界を感じていたころ、偶然のキッカケで、「冒険家」となり、世界が広がった。あこがれていた海外旅行がタダで実現可能になったのである。それは、社会的に、初めて自分の個性・能力を試す場だった。また、自分の名前が公表されることの意味(責任、影響、価値など)を考えさせられることにもなった。

昭和41(1966) 27歳……………「肉体の挑戦」

### < 懸賞金で、アフリカを3か月間、単独オートバイ旅行 >

偶然、蕎麦屋で見た日刊スポーツ紙の「百万円冒険旅行募集」に応募した。BU-PROで企画していた「国鉄によるアフリカ大陸横断鉄道プランの現地記録映画」が頓挫していたので、この資料をアレンジし、「アフリカ大陸横断オートバイ冒険旅行」を企画した。

1251通の応募から7候補に絞られ、6月、当選した。ホンダがオートバイ(300cc。新輸出車)を提供してくれるというので、当時開通したばかりの新幹線で浜松の工場へ行き、試乗。目的地ポートスーダンへの船便輸送を依頼した。

この間、出発までの2か月間、友人の岡村和臣(花屋)や原将晃(牛乳屋)のオートバイ(250cc)を借りて、多摩川の土手などで、みっちりスクランブル走行を練習した。

8月5日、羽田から出発(ガルーダ航空)。途中、バンコクで乗り継ぎの数時間があったので、ホテルでオートバイを借りて、市内を一周。友人ができて、その家でお茶まで飲んでホテルへ戻ったら、乗客から驚かれた。初めての海外体験を目いっぱい楽しんでた。

カイロでは、朝日新聞社(日刊スポーツと同系)の特派員がギザのピラミッドを案内してくれた。スーダンの首都カルツームでは、数日間、奥地の地図資料や道路情報、走行許可などを入手するのに奔走した。

ポートスーダンから出発直後、砂漠で転倒して、足を骨折。汽車の終点まで行き、ギブスを切って国境へ。スーダンとチャドで戦争が勃発したので、日本大使館に連絡したが、状況は不明。チャドへの入国を敢行したが、入国拒否。のち、砂漠を走り回って、種々の「冒険」だけはこなした。オートバイを日本へ発送し、出発3か月後の11月5日に帰国。

帰国後、日刊スポーツ紙のコラムで、『アフリカ冒険2000キロ』を毎日連載した。11月21日から12月31日まで、約40日間。その間、テレビ「木島則夫ショー」、ラジオ「三木鮎郎トーク」などにも出演。当時のアフリカ奥地の事情を報告した。なお、当時から対立していたアラブ(北)と黒人(南)の争いは、40年後の現在、最悪の状況を迎えている。

出来事 = 3月、スカルノ大統領辞任 / 5月、原潜横須賀初入港 / 6月、ビートルズ来日 / 8月、文化大革命盛ん。毛沢東、100万人大会で紅衛兵接見 / この年、航空機事故多発(YS機、松山沖で墜落。日航機羽田事故。BOAC富士山衝突 / 運輸省から「黒い霧」 / 常磐ハワイアンセンター、オープン / 美空ひばり「悲しい酒」、園まり「夢は夜ひらく」ヒット / 鈴木大拙死去。

## 昭和42(1967) 28歳……………「ライターの世界」

新聞の連載に加筆して、刊行することになった。他社からも、「ゴーストライター(代筆家)に話をするだけで、すぐ出版してやる」などと言われたが、それは私自身の仕事でもあり、安直に出版する気はなかった。約1か月くらい、加筆作業をして、完成した。

この本は、38年後の2005年に、改訂して、CD発売することになる。

4月、『日刊スポーツ出版社 / 燃える！ 白いアフリカ - オートバイ野郎冒険記』新書版。306pp。330円。沖表紙絵:3点。写真:151枚(うちカラー6)。スケッチ画:6点。地図:2点。累計(自著、編集書籍含む。以下同) 1冊

このころから、執筆活動に関心を持ち始めた。

## < 帰国後の執筆活動 >

小学生毎日新聞に連載。アフリカの子供たちの遊び・学業・労働などを紹介した。また、『自動車物語』を毎週2ページ連載した。

日刊スポーツ出版社『ゴルフ・マンスリー』で、ルポライターも頼まれた。「グラビアノゴ

ルファー訪問」を約5本。取材・執筆(魚河岸のゴルファー、日本初の女性ゴルファー、女子大のゴルフクラブ、など)。

光文社『女性自身』でアンカー。「慶大生のヒモ職業」「姑と仲良くする秘策」など。

洋画の翻訳も続けていたが、「翻訳・アテレコ」の世界には、やや限界を感じていた。テレビ界への失望に加えて、上のように「オリジナルな自己表現」を好んだためである。

.....

この年、兄・祐之と喜美子が夫婦でカナダに移住した。以後、ニューヨーク、ロサンゼルスと移動しながら、カメラ設計、日本料理店、不動産業などを手がけて、帰国。再婚(妻・敏子)して、高知県中村市(現・四万十市)敷地で自然農業生活(福岡正信の影響)を始めた。その後、平成8年(1996)、私と小川(後述)が看取ることになる。

ちなみにこの間、兄は、弟・貢の「親代わり」として、カナダ・トロントに弟夫婦を呼び寄せ、広告レタリングの仕事を始めさせた。今でも、弟一家(息子4人、孫1人)はトロントに在住している。「若いころに稼げ。早く引退して、不労所得で暮らせ」が兄の口癖だった。

.....

### < 河出書房の子会社に就職 >

12月、親しくしていた「にんじんくらぶ」社長・若槻繁氏(元・女性雑誌『ひまわり』の編集長だった)から、河出書房(河出朋久社長)を紹介され、その子会社「河出アートセンター」に入社した。「君は、映画よりも出版に向いているよ」との配慮だった。実際、テレビの石鹸CMに出演しないか、と若槻氏から話があったが、丁重にお断りしたことがあった。

結局、これをきっかけにして、以後40年近く、出版編集の仕事が「メシの種」になったわけだから、人生はどこでどう変化するか分からない。まだ「仮説実験」が続いていた。

当面、『河出版 / 女性百科』の編集部にも所属した。料理研究家・飯田深雪、王馬熙純などと交渉し、撮影も始めた。大阪にも出張して、繊維メーカーと交渉したりした。しかし、河出書房本社の経営不振から、なかなか刊行が実現しなかった。

ヒマだったので、ライター仲間と新宿ゴールデン街、ゴーゴークラブ、麻雀荘などによく出入りした。都心から多摩川(尾山台)まで、オートバイの夜間飲酒運転が続いた。

出来事 = 6月、中国水爆実験 / 8月、ASEAN結成 / 10月、吉田茂死去

## 出版企画・編集プロダクションの編集長時代.....

以後40年近くの「メシの種」が決まった時代。思えば、出版編集作業は、私の「天性の好むところに基づいた(黒田清輝)」ようだ。つまり、「読書・思考癖」や「絵心」のことである。

### 昭和43(1968) 29歳.....「新米編集長」

姉・美津の建て売り住宅を購入して、移転(練馬区東大泉1231)。6回目の引っ越し。20代で、ローンもなく、一軒家を得たことになる。幸子とその母も同居した。ここから、神田のアートセンター事務所まで、目白通り経由、オートバイ通勤が始まった。約40分。

このころ、インディラ・ガンジー首相が来日。『女性自身』の依頼で、「独占車中インタビュー」をし、名古屋で新幹線とんぼ返りして、大部屋で原稿作成(これはアルバイト)。

.....

8月、ついに河出書房が更正会社になり、「河出アートセンター」は「日本アートセンター」と改名して再出発した(千賀四郎社長)。出版企画・編集専門の会社、いわば編集プ

ロダクションとして、独立したのである。やっと仕事ができるか……？

### <いきなり編集長に>

まず、それまで座右宝刊行会が編集していた『河出書房版・世界の旅』全20巻を、日本アートセンターが引き継ぐことになり、私が急きょ編集長に指名された。

引き継いだ当時は、『フランス』を大宣伝中で、香水や書架を読者にサービスしたり、フランスからシャンソン歌手(イベット・ジロー)を呼ぶなど、大騒ぎしていた。こうした「全集の商品化」、つまり、無謀な宣伝費や本屋への報奨金などが経営を悪化させたらしい。

私の抜擢は、千賀社長の兄・片山修三が河出書房や座右宝刊行会の顧問だったためである。「英語ができて、海外経験があり、写真・映像に詳しく、元気や教養(度胸?)のあるヤツ」という「旅編集者」の条件に合致したらしい。また、「何か」が幸いしたようだ。

### <ハタハリと努力が報われた>

座右宝編集部で写真収集・原稿依頼などの準備が半分進んでいた。ほやほやの編集長だったが、なんとか印刷用語を身につけ、「ハタハリと努力」で、無事編集を完了した。

時には、先輩や同級生、それまでの人脈や交友仲間に執筆を依頼した。例えば、兼高かおる、田畑稔、黄玉火、最首公司、秋吉輝男、福田修、田中光常、高橋啓、増田義郎、山田睦男は、知人、同級生、仕事仲間、恩師などである。

また、私の体験・趣味なども、十分活用することができた。『エジプトノ北アフリカ』では、ペンネーム(永井利秋)を使って執筆したり、アフリカの写真やイラストを提供したりした。自分の文章や絵が「商売として通用する」ことが愉快だった。

こうして、「編集は、自己表現できる場である」と気づいた。また、「案外簡単で、楽しい」と自信がつき、「やり方しだいでは儲かる」という信念を抱くことにもなった。

『河出書房版ノ世界の旅』全20巻。各152pp。地図・音楽レコード付き。690円。監修：桑原武夫、富永惣一、泉靖一、井上靖、兼高かおる。

ハワイノオーストラリア 執筆：福田蘭童、尾上九朗右衛門、阿川弘之、岩佐嘉親、渡辺喜恵子、深沢照幸、村内必典、石川栄吉。音楽：ホノルルこんにちは。わが胸の高鳴り。カイマナ・ヒラ。チュル・チュルル。マオリ・メドレー。

中国ノ朝鮮 執筆：兼高かおる、岩田玲文(田畑稔のペンネーム)、江頭数馬、水野清一、倉石武四郎、三上次男、大森泰、三宅修、黄玉火(行き付けの『山珍居』のおやじ)。音楽：何日君再来。草原情歌。茉莉花。トラジ。アラン。

インドノ東南アジア 執筆：大内穂、伊藤正二、田中良平、三田幸夫、田中於菟弥、河部利夫、深作光貞、グエン・カック・カム、原澤伸治。音楽：トラン＝プラン。ブンガワン＝ソロ。かわいいあの娘(ジャワ民謡)。

トルコノ西アジア 執筆：小山皓一郎、黒柳恒男、板倉勝正、前嶋信次、小泉文夫、最首公司(弘瀬の友人)、秋吉輝男(高校の同級生)、大岩川和正。音楽：ムスターファ。ハバナギラ。アラビアのロレンス。栄光への脱出。

**エジプト/北アフリカ 執筆:**黒田壽郎、近藤不二、福田修(スーダンの日本大使館で世話になった大使館員)、永井利秋(沖由也のペンネーム。スーダンの項)、西ヶ谷秀夫、林茂雄、塚田暢利。**音楽:**エジプトに栄光あれ。アラビアの踊り。チュニジアの夜。アフリカの星のボレロ。 沖写真:7枚(カラー2)。遺跡地図:1点。

**アフリカ 執筆:**田中光常(義兄が公認会計士)、松村正義、安延久夫、那須国男、多賀敬二、田岡義計、端信行。**音楽:**さらばアフリカ、エアージン、コンゴ国歌、エチオピア国歌、ケニア国民歌(ライオンの国)。

**ギリシア/エーゲ海 執筆:**小田実、前田正明、川島重成、三浦一郎、藤井義夫、イオルゴス・シオリス。**音楽:**その男ゾルバ。日曜はダメよ。シルタキを踊ろう。別離。ギリシア国歌

**イタリア 執筆:**石垣綾子、長谷川博隆、松本芳郎、永井三明、井関正昭、山崎功、竹内啓一、高島鎮雄、瓜生忠夫。**音楽:**ヴェニスの日。オー・ソレ・ミオ。フニクリ・フニクラ。サンタルチア。帰れソレントへ。

**フランス 執筆:**なだいなだ、石井好子、篠田浩一郎、中村真一郎、坂崎乙郎、茂登山長市郎、日高達太郎、高田美。**音楽:**パリの空の下。パリ祭。マドモアゼル・ド・パリ。ラ・メール。枯葉。 この巻のみ、ほぼ完成していた。

**スペイン/ポルトガル 執筆:**原誠、勝田保世、与謝野秀、富田澄子、東畑朝子、神吉敬三、スザンヌ・シャンタル、杉浦玲子。**音楽:**愛のロマンス。アルハンブラの思い出。エル・レリカリオ。ラ・パロマ。スパニッシュ・セレナーデ。

**ドイツ/オーストリア 執筆:**山下肇、山本啓、下村由一、諏訪英一、藤村宏、芳賀日出男、中野孝次。**音楽:**野ばら。ローレライ。別れ。美しく青きドナウ。

**北ヨーロッパ 執筆:**浅井得一、佐藤一郎、栗原紘一郎、林穰二、坂井玲子、ヘレ・クリント、竹山実、坂井義太郎、高橋啓(先輩。元、私の社長)、楠宏。**音楽:**デンマーク国歌。ゾルヴェイグの歌。

**スイス/オランダ/ベルギー 執筆:**新田次郎、杉山進、近藤等、林三郎、平野孝国、森本芳樹、森本朝子、黒江光彦。**音楽:**スイス国歌。アルプホルンの調べ。アルパイン・ヨーデル。おおブレネリ。かわいいセレナーデ。オランダ国歌。ベルギー国歌。ドミニク。

**イギリス 執筆:**妹尾芳郎、深代惇郎、大島清、櫻庭信之、倉田保雄、平田博、萩原延壽、難波利夫、尾島庄太郎、井上宗和。**音楽:**God Save the Queen / Long, Long Ago / If a body meets a body /

**ソビエト 執筆:**岡田嘉子、木村浩、工藤精一郎、ピョートル・バラフタ、米川哲夫、秦正流、泉靖一、加藤九祚、大沢正。**音楽:**トロイカ。バイカル湖のほとり。黒い瞳の。カチューシャ。ともしび。ドクトル・ジバゴよりララのテーマ。

**東ヨーロッパ 執筆:**阪東宏、ズデンカ・コーモヴァ -、徳永康元、園部三郎、倍賞和子、

千野栄一、高橋啓(先輩社長)、三浦博子、田中一生。音楽:チゴイネルワイゼン。お  
お牧場はみどり。シュヴァジェヴェチカ。気のいいあひる。

アメリカ(1) 執筆:安倍寧、城山三郎、山内大介、本多俊夫、杉田房子、高橋正雄、  
祖父江孝男、青柳清孝、平井輝章。音楽:ショーほどすてきな商売はない。思い出の  
サンフランシスコ。セントルイス・ブルース。おおスザンナ。深い河。ヘイ・ネリ -。

アメリカ(2) / カナダ 執筆:加藤秀俊、斉藤襄治、斉藤真、東野芳明、刈田元司、平  
野敬一、兼高かおる(Kプロの仲間)。音楽:トゥ・ナイト。ウェスタン・ヒット・メドレ -。カ  
ナダの夕陽。インディアン・ラヴ・コール。朝日の当たる家。

メキシコ / カリブ海 執筆:利根山光人、深作光貞、増田義郎(大学教養課程の担任)、  
阿部金剛、山田睦男(大学の同級生)、山本満喜子、市川政喜。音楽:ある恋の物語。  
ラ・マラゲ - ニャ。ラクカラチャ。シェリト・リンド。テ・キエロ・デヒステ。

南アメリカ 執筆:泉靖一、大給近達、山本満喜子、寿里順平、小川安朗、狩野千秋、  
新野弘、増田義郎(大学教養課程の担任)。音楽:エル・チョクロ。ラ・クンパルシート。  
エル・ウマウアケニヨ。イパネマの娘。黒いオルフェよりカーニバルの朝。

累計 20冊

「イラスト入り遺跡図」など、初めてボールペンで原画を作成した。これ以後、編集長  
自身でイラストを描くのが病み付きになった。

出来事 = 1月、原子力空母エンタープライズ佐世保入港 / 2~3月、成田闘  
争・東大闘争 / 4月、キング牧師暗殺 / 5月、パリ5月革命 / 10月、明治百  
年祭 / 12月、南極点到達 / この年、3億円事件、ソミ村虐殺事件など。

昭和44(1969) 30歳……………「旅行カメラマン」

7月、それまでの駿河台下「カドチ」から、神田小川町に事務所を移転した。

無事編集に成功したので、その実績が次の仕事を生むことになった。

11月、千賀・片山の画策で、中央公論社(嶋中鵬二社長)から『中央公論社版・世界の  
旅』(会話レコード付。全15巻)を出版することになり、当然(?)私が編集長になった。窓  
口担当は宮脇俊三氏(のちの時刻表・汽車・旅行ライター)。

11月から翌1月までの3か月間、編集費で単独世界旅行した。写真収集・取材・撮影の  
ためである。2度目の海外旅行だった。アテネ、\*ローマ、ミラノ、ジュネーブ、\*パリ、フ  
ランクフルト、ハイデルベルグ、ベルリン、ハンブルグ、ストックホルム、オスロ、\*ロンドン、\*  
ニューヨーク(兄・祐之夫婦と会う)、サンフランシスコ、ロサンゼルス、ハワイ。

\* 印の4都市では、オートバイを借りて行動した。千賀社長が元カワサキの営業マンだ  
ったので、世界各地のカワサキ工場を紹介してもらい、ニューヨークでは「マッハ3 3  
00cc」などの輸出車を借りることができた。兄・祐之夫婦の家 ニュージャージー に  
宿泊して行動。雪の高速道路で転倒し、雪と氷にまみれて帰宅したこともあった。

この旅行の成果は大で、私の写真だけでなく、観光旅行の現地情報や貴重なカラー写真(現地カメラマンや観光局のもの)を大量に、安く入手することができた。また、現地で会った日本人10数名にも、直接“現地ナマの原稿”を依頼することができた。

出来事 = 1月、東大安田講堂の封鎖解除 / 7月、アポロ11号月面着陸 / 11月、全米でベトナム反戦運動盛ん / 12月、社会党50議席減の大敗。

昭和45(1970) 31歳……………「初の自作全集」

6月から毎月1冊の刊行を開始した(翌年9月まで)。それまで、15巻の原稿執筆、編集、スタジオ録音に専念した。会話レコードには、私も英語で出演した。企画から取材・編集まで一貫した「私の編集仕事」は、これが初めてだった。

河出版以上に知人を多用し、河出版よりもずっと実用ガイド的に仕上げた。

『中央公論社版 / 世界の旅』 全15巻。17cm盤LPステレオ・旅行会話レコード付き。各168pp。690円

フランス 執筆:竹本忠雄、岸恵子(にんじんくらのコネで依頼)、水井美代子、ニコラ・バタイユ、植木浩、服部栄二、マルセル・ブリニョ - 。会話レコード:ニコラ・バタイユvs岡田正子。 写真:沖34枚(カラー11)。

イギリス / オランダ 執筆:服部晃、西谷武夫 会話レコード: <英語> ウィリアム・ロウズvsジル伊藤、渡辺佳子 <オランダ語> ヒニ - ・スペルマンvs尾崎勝。 写真:沖32枚(カラー15)。

ドイツ / オーストリア 執筆:石井国夫、室井摩耶子、松原久子、越宏一。会話レコード:ゲルト・ヴィーンケvs岩沢佐地子、神崎一昌。 写真:沖38枚(カラー19)。

北欧 執筆:坂井玲子、中島香子。会話レコード: <デンマーク語> ベンツ・リンドブラッドvs山岡一信 <スウェーデン語> インガ・リル・ブルネル vs 佐藤一郎。 写真:沖51枚(カラー44)。

ソ連 / 東欧諸国 執筆:中本信幸(兄・恒夫の同級生)、内田莉莎子。会話レコード:ウラジミール・ロガリスvs佐藤節子。

イタリア / スイス 執筆:水田泰宏、佐野敬彦、加藤喜紀、加賀幸則、村瀬純子、山川正子。会話レコード:マッカ - リ・エンニョ vs 山崎あけみ。 写真:沖44枚(カラー20)。

ギリシア / スペイン / ポルトガル 執筆:宮腰光広、ジョージ・A・シオリス、片岡秀浩。会話レコード: <ギリシア語> ジーナ・カルネジーvs金久保英雄 <スペイン語> ペドロ・ガリョ vs 児島美子。 写真:沖18枚(カラー10)。

アフリカ 執筆:附柴正躬(姉・千津の夫)。会話レコード: <スワヒリ語> 藤島モザvs守野庸雄 <アムハラ語> マコ - ネン・ネグッセ vs 石垣幸雄。 写真:沖24枚(カラー12)。

動物イラスト43図。

エジプト / 中近東 執筆:秋吉輝男(同級生)。会話レコード:スーザン・ナガvs福田修。

インド / 中国 執筆:コラムのみ編集部作成。会話レコード:<ヒンディ語>S・K・ゴパールvs大内穂<中国語>水世娣vs橋川純治。

香港 / 台湾 / 東南アジア / 韓国 執筆:コラムのみ編集部作成。会話レコード:<韓国語>金淑子vs田村一郎<広東語>廖廣淳vs王淑慧。 写真:沖59枚(カラー30)。

アメリカ都市編 執筆:デイヴィス・バラガー、近藤健、小笠原道子、小原静爾。会話レコード:フリッツ・M・シュミッツvs井上寿美子、松田あぐり。 写真:沖56枚(カラー26)。

アメリカ自然編 / カナダ 執筆:杉田房子、沖喜美子(兄・祐之の妻) 会話レコード:フリッツ・M・シュミッツvs 大木一也(沖由也のペンネーム)。 写真:沖カラー15枚。

メキシコ / 中南米 執筆:山田睦男(同級生)、大谷四郎、山田裕子(睦男妻)。会話レコード:<スペイン語>マグダレ - ナ川口vs上原啓<ポルトガル語>イヴォ・コスタvs米田恵子、原洋子。

ハワイ / 南太平洋 / オーストラリア 執筆:佐藤一男、服部善郎、藤波隆一。会話レコード:<ハワイ語>早津敏彦vs里見美奈子<ポリネシア語>早津敏彦vs池田慧子。 写真:沖カラー16枚。 累計 35冊

「旅行の手引き」は毎回、紅山雪夫。地図・イラストは弟・沖貢。また、会話レコードのイラストには志村福治(弟・貢の友人。動画『サザエさん』の原画作成者)を起用。以後、志村は長期間、多くの出版物のイラストに協力してくれることになった。

写真は、ユニークで美しいカラー写真を、ニューヨーク、パリ、デンマーク、ロンドンの写真代理店や観光局から取り寄せた。 沖撮影写真の総計:382枚(うちカラー219)。

市ヶ谷に会社のマンションがあり、その2室を臨時事務所にして、編集作業をした。宮脇氏もよく遊びに来た。兄・恒夫(資料翻訳)、弟・貢(レタリング)も編集に協力した。

出来事 = 3月、大阪で日本万博。赤軍派学生、よど号をハイジャックして北朝鮮へ亡命 / 6月、安保条約が自動延長 / 11月、三島由紀夫割腹自殺

## 結婚・出産・育児の時代

「よきパパ、よき編集者」の時代。「身を固める」というほどの真剣さはなかったが、自分の人生設計の中に「子を持つ面白さ」を加えるには、この年齢しかなかった。

昭和46(1971) 32歳。幸子の年齢も考えて、子供を作ることにした。同時に入籍した。同棲を始めてから7年目だった。

出来事 = 6月、沖縄返還 / 8月、ニクソンのドル防衛策でドルショック / 10月、台湾国連追放 / 12月、円の変動相場制。1ドル = 308円。

昭和47(1972) 33歳。6月、長女・千絵誕生。妻・幸子は会社(味の素同族事務所)を辞め、育児に専念した。義母も孫の育児に協力した。

4月、駿河台下、すずらん通りの友田三和ビルに会社移転。10月から、さらに徹底した実用ガイド版として、『中央公論 / 世界の旅・縮刷版』全10巻を刊行開始した。

詳細ガイドの資料収集のため、編集費で香港、台湾、ソウルを単独旅行(3度目の海外旅行)。観光局とコネをつけ、撮影取材の協力を仰いだ。私の写真・地図も多数収録。

『中公ガイドブックス / 世界の旅・1972年版』全10冊。新書版。各136pp。カラー4ページ。480円。

パリ 写真:沖27枚(カラー3)。

香港 / 台湾 写真:沖84枚。

ハワイ 観光地図・イラスト:沖41点。

ニューヨーク 写真:沖40枚(カラー2)。

スイス / アルプス 写真:沖カラー2枚。アルプス山岳細密図・地図:沖16点。

イタリア 写真:沖カラー3枚。

イギリス 写真:沖カラー2枚。

アメリカの国立公園 写真:沖カラー1枚。観光地図:沖26点。

ドイツ / オーストリア 写真:沖27枚(カラー5)。

北欧 写真:沖28枚(カラー6)。

\*沖写真の総計:179枚(カラー24)。沖細密地図:83点。

累計 45冊

10月、高橋啓(Kプロ社長。先輩)が転職していた日音(日本音楽著作権会社)からの依頼で、下記の書籍をリバイバル編集した。著者・北村とは東京放送からの縁らしい。

『日音版 / 新諸国物語-笛吹童子』上中下3冊を再編集。

累計 48冊

著者・北村寿夫の希望で、息子・北村芳文のイラストを使用した。

一方、光文社闘争の結果、弘瀬の勧めで、『女性自身』から独立した祥伝社『微笑』(桜井秀勲編集長、黒崎取締役)と付き合いようになった。私は、第一号から5~6ページの記事アンカーを務めることになった(アルバイト)。

出来事 = 2月、札幌冬季オリンピック / 5月、沖縄の施政権返還 / 6月、ウォーターゲート事件 / 9月、田中首相訪中 = 日中国交正常化 / 12月、米、北爆再開。

## 逗子移転後、単身ニューヨークで生活。日本料理店のマネージャー時代(半年間)

自宅を東京から逗子に移転した。また、編集業を中断して、ニューヨークの日本料理店

でマネージャーを務めた。30歳代半ばで、編集業にそれほど未練はなかった。まだ何かを模索していて、「私を必要としてくれる場」には、必ず首を突っ込むクセがあった。

### 昭和48(1973) 34歳……………「最後の独身生活」

練馬区に関越高速道路ができ、夜間になると、「ウォン、ウォン」と妙な音が響いた。「ここは家族が住む場所ではない」と判断して、5月、横須賀市秋谷43に移転した。7回目の引っ越し。家は隣家に売り、家族4人のための中古4LDK(敷地40坪)を入手した。

この家は、弘瀬が付き合っていた女性との「新居」の候補地の一つだった。最寄りの逗子駅からは10数キロ、葉山御用邸の南の海岸避暑地で、富士山も見え、環境は抜群だが、東京までの通勤は片道2時間。この通勤時間が、最終的に離婚の原因にもなった。

### <「夜の湘南族」に仲間入り>

かたや、弘瀬は鎌倉山に豪壮な「新居」をおったてて、鎌倉文人と付き合い始めた。その中には、歌人・山崎方代、和菓子屋「みすず」の主人(竜笛演奏家)、「吉備屋」のオーナー牧野晃一(家具作家)、円覚寺・仏日庵の住職・高畠和尚、高橋啓の弟・高橋洸(明大経済学教授)、秋山親子(秋山刺繍研究所)などがいた。こうして、私は“にわか湘南族”になって、夜の鎌倉を飲み歩いた。

### <仕事の切れ目で退社>

会社のほうは、中央公論『世界の旅』の縮刷版が終了したので、ヒマになった。

もともと、仕事をしないで給料をもらうのは嫌だったうえに、ニューヨークの兄・祐之から、「夫婦で世界旅行をしたいので、日本料理店の臨時マネージャーをやってくれないか」との話。日本電気退職の時と同様、軽い気分で、日本アートセンターを退社した。

なぜか、「アメリカ人にラーメンを食わせよう」との意気込みだった。買い込んだ製麺機を持参して、単身ニューヨークへ。家族には、「給料を送る」と約束した。私としては、「親子3代、海山に囲まれた別荘地で暮らせればいいじゃないか。夫はちょっと自由の気分を味わってくる。辛抱してほしい」というのが言い分(言い訳)だった。

### <ニューヨーク・グリニッジビレッジの生活>

兄・祐之の日本料理店は「チキテリ・ビレッジ」と言って、グリニッジビレッジの大通りにあり、日航関係の「チキテリ」というチェーン店だった。兄は、このフランチャイズシステムに不信感を抱いており、この店に、妻(喜美子)の妹(相馬秀子)夫婦を日本から呼びよせ、新しい店として独立させようとしていた。

つまり私は、英語ができない妹夫婦の通訳兼マネージャーという留守番役だったのである。かくして、5月から11月までのニューヨーク生活が始まった。

兄夫婦の留守中、私は、店を『一休・IKKYU』と改名して、独立することにした。まず、看板をデザインして、材料を買い込んで製作。「カツ丼」や「刺身」のメニューを描き、名刺を作り、地下室で製造したラーメンやうどんを出すなど、改造準備に追われた。この間、すれっからの商売人やお役人を相手に、工事依頼や交渉事続けた。難しかったが、緊張感があって、面白かった。いつも、ジーパンに海水浴サンダルという姿だった。

店から数分のアパートに、兄が日本から連れてきたコック2人と同居した(兄は他人に海外移住を勧めるクセがあった)。風呂場のタブには、いつもゴキブリの大群が泳いでいた。

日本人コック2人のガイドも務めた。チャイナタウン、自由の女神、ストリップ小屋、海水浴、ポルノショップ、古本屋など。週に数回、タクシーでフルトンの魚市場まで買い出しに行った。時には、東京からの中年観光客に頼まれて、地下鉄やポルノ映画の案内をやり、感謝された。閉店後、朝まで、黒人専用の深夜ディスコで踊りまくったりもした。

日本茶に砂糖を入れるような客が多かった。しかし、200キロ近くの女性黒人教師に定席を用意したり、サンタナ(当時は知らなかった)のメンバーと日本の話をして愉快だった。

個人的には、「神武 = 徐福論」の著者・衛挺生氏(後述)と連絡したり、サイケデリックな蛍光塗料ポスターを問屋で買いこんだりして楽しんだ。女性遊びは、怖くてできなかった。テレビでは、毎日のように、ウォーターゲート事件公聴会の中継場面が流されていた。

いい話だけではない。製麺機で右中指を切断しかけたり、店のクーラーが故障して修理工事に奔走したり、釣り銭詐欺に合ったり、オカマに誘惑されたりした。

そのうちに、次の子供がそろそろ生まれる、との連絡があった。「やはり、日本で身を固めるべきだ」と考えて、帰国した。またフリーター生活に戻るか……。

出来事 = 8月、金大中事件 / 10月、第4次中東戦争。第1次オイルショック

## 出版企画・編集生活に復帰した時代……………

中断したものの、やはり編集業に復帰した。当時は、書籍とくに全集の出版物がよく売れていた。私の企画や予算もよく採用されたため、いわば「ヤミツキ」になったのである。

昭和49(1974) 35歳……………「古代ロマンの世界」

2月、次女・久美誕生。日本アートセンターから、「もう一度、編集に戻らないか」という誘いを受けた。当時は約40人くらいの会社で、千賀社長は会社を拡大したがっていた。

### < 復職して、日本古代史の編集を始める >

そこで私は、小学館に、「日本人の起源から平安時代までの考古学・歴史学の問題点を、史料・地図・図解などで解明する日本古代史の旅」という全集企画を提出した。企画が通って、予算を分捕れなければ、復職する意味はない。小学館しだいだった。

ジャポニカの編集長・篠弘氏(歌人。NHKラジオ出演中)、新関氏(大学の先輩)が窓口となって打ち合わせが続き、ついに「やってくれ」という話から、日本アートセンターに復職した。「それまでは休職」という条件になった。9月からの刊行開始、翌年3月まで。

『小学館版 / 日本古代史の旅』 全8巻。各184pp。950円。監修者: 児玉幸多・奈良本辰也・和歌森太郎。

日本誕生 - 列島文化への視点 執筆: 森豊、西岡秀雄、新谷行、加藤晋平、千野栄一。 沖写真: モノクロ7枚。細密画: 24点。遺跡地図: 15点。

縄文・弥生 - 日本のあけぼの 執筆:岡崎文喜、江坂輝彌、田村晃一、甲元真之、森貞次郎。 沖細密画:25点。遺跡地図:18点。

邪馬台国 - 謎の古代国家 執筆:和歌森太郎、井上秀雄、西谷正、河口貞徳、渡辺正気。 沖写真:5枚(カラー2)。細密画:17点。遺跡地図:23点。

古墳と王墓 - 権力の記念碑 執筆:泉森咬、菅谷文則、伊達宗泰、間壁忠彦、岩崎卓也、森浩一。 沖写真:カラー1枚。細密画:29点(カラー1)。遺跡地図:18点。

神話と万葉 - 古代ロマンの世界 執筆:上田正昭、宇野幸雄、衛挺生(元燕京大学教授。私が好きな神武天皇 = 徐福説を紹介したかった)、山本健吉、中西進。 沖写真:カラー5枚。細密画:16点(カラー3)。遺跡地図:15点。

飛鳥 - 神秘の遺跡群 執筆:金達寿、加藤瑛子(同級生)、横山浩一、網干善教、樋口清之。 沖写真:88枚(カラー30)。細密画:37点(カラー4)。遺跡地図:6点。

奈良の古寺 - 天平の仏たち 執筆:木下正史、平岡定海、杉山二郎、久野健、宮川寅雄。 沖写真:37枚(カラー23)。細密画:35点。遺跡地図:4点。

平安京 - 貴族王朝の舞台 執筆:角田文衛、寺島孝一、佐和隆研、橋本義彦、奈良本辰也、高野澄、渡辺直彦。 沖細密画:19点。遺跡地図:10点。

累計 56冊

原稿依頼と撮影取材をかねて、福岡・志賀島、飛鳥地方、橿原などを旅行した。このころから、日本人や天皇の起源、縄文文化、前方後円墳、飛鳥の石造遺物など、古代史の謎に関心が高まった。これらは、すべてのちに、私の著作や絵のモチーフになった。

写真は主として、小学館写真部のアリネガを多用して、編集費を安く仕上げた。沖の写真も総計137枚(カラー61)を使用した。細密画:212枚(カラー8)。遺跡地図:109点。

出来事 = 8月、ニクソン辞任。ソウルで朴大統領狙撃事件 / 11月、フォード大統領来日 / 12月、田中角栄金脈問題で内閣総辞職。

.....  
**昭和50(1975) 36歳.....「大胆な仮説」**

祥伝社『微笑』との関係で、「新書版ノン・ブック」の編集長・伊賀弘三良氏と話し合う機会があり、雑談しているうちに、私の「前方後円墳 = ピラミッド」の仮説を出版しないかという話に発展した。私も、日本古代史への関心と同時に、昔旅したスーダン(メロエ)のピラミッド群を紹介したかった。それらを「謎仕立て」で構想したのである。

目次を作成した段階で、当時入院中の松本清張氏を2人で訪問し、古代史の問題点や企画の話をした。話題は主として、「考古学と文献学(古事記)との接点。謎の部分」だった。また、飛鳥の石造物(亀石、猿石、須弥山石、酒船石など)、ゾロアスター教の日本伝播、スーダンに残るピラミッド群などにも話が及んだ。12月に出版。

『祥伝社版 / 日本ピラミッドの謎』 256 pp. 新書版。600円。

自著第2作目だった。

累計 57冊

私の知人ということで、仲代達矢・樋口清之の両氏に推薦文をお願いした。写真・考古学資料は、すべて私が収集し、遺物の細密画、復元図、地図などのイラストもすべて私が描いた。増刷は4万部まで。私の著書の中で最も売れた本である。

出来事 = 4月、蒋介石死去。ベトナム戦争終結 / 5月、エリザベス女王来日 / 9月、天皇訪米 / 10月、佐藤栄作死去 / 11月、パリで第1回サミット

## 編集プロダクションの経営者時代始まる.....

会社経営の面白さというよりも、努力に伴う自己責任・社会責任を意識し始めた時代。編集が「本職」になっていき、編集長としての自負心も芽生え始めた。

### 昭和51(1976) 37歳.....「日本の庭園」

私は、以前のように、社員でありながら、アルバイトがらみの執筆活動を続け、交友関係も広く、自由に活動していた。時には、無能な上司に噛み付いたり、「私と上司のどちらかを辞めさせろ」と千賀社長に迫ったこともある(結局、上司2人がクビになった)。

「やめても食える」という自信がある一方で、「嫌な奴に我慢して、一緒に仕事したくない」という、日本電気退社時の乱暴なプライド(純真な正義感?)が、まだ続いていた。「鬼の沖。仏の木島(他の編集長)」などの綽名は、このころついた。

### < 第一アートセンターの取締役になら >

「沖は、日本アートセンターには合わない(調和を乱す?)社員」とされていたらしい。2月、「日本アートセンターから独立しないか」との勧めで、「第一アートセンター」を設立した。

社長は、重森執氏(ゲーテ)で、私は実務担当の専務取締役。ゲーテの職業は広告業だったが、父が京都の庭園界の重鎮・重森三玲(ミレイ)で、庭園など伝統文化の出版企画に役立つ男だったので、千賀が抜擢した。私は、いわばゲーテの補佐役だった。

.....  
この年の前半は、京都・鎌倉などの坪庭や茶室を、取材・測量した。ゲーテの兄・重森完途(カント)も庭園師だった。おかげで、庭園師・斎藤忠一、大橋カメラマンらと、修学院離宮、京都御所、桂離宮などの庭や茶室を、仕事として見学することができた。

6月、『毎日新聞社版 / 坪庭』 全1巻・1万8,000円の豪華本を刊行。監修・谷口吉郎・梶浦逸外。執筆者・秦恒平など。

9月、『毎日新聞社版 / 日本庭園の手法』 全5巻・各2万円を刊行開始。責任編者・重森完途。写真・大橋治三。年内に2巻、翌年3巻。 累計 63冊

.....  
だが、茶道・庭園・華道などの事大主義的な雰囲気(家元制度や伝統至上主義など)には、少しずつ反発を感じるようになっていった。

そのころ、通販会社・千趣会で雑誌『クック』の編集長だった北村方志氏と知り合った。

一方、千趣会の高井社長、千賀社長が会談するうちに、「女性向けのシリーズ出版物はできないか」という話になった。「女性読者には、歴史上有名な女性の歴史がよかろう。その編集には最適任者(沖)がいる」となり、全12巻を企画。契約成立。準備に入った。

出来事 = 2月、ロッキード事件証人喚問 田中角栄逮捕 / 4月、天安門事件 / 7月、ベトナム社会主義共和国成立 = 南北ベトナム統一 / 9月、毛沢東死去

昭和52(1977) 38歳……………「お客さまは女性」

兄・恒夫が詩集『メランジュ』を自費出版。ゲーテ企画の「伝統美を紹介する豪華出版物」の実務が続いた。昔原稿を書いていた毎日新聞は会社から歩いていける距離だった

5月、『毎日新聞社版 / 玄関の庭』 全1巻。2万円。監修・立花大亀・谷口吉郎。執筆:千登三子など。

長谷川一夫邸、鎌倉の坪庭などを、斉藤らとともに取材・交渉し、撮影に立ち会った。

6月、『毎日新聞社版 / 日本の庭』 全1巻・A3判・帙入り。8万円。監修・重森三玲。これは、三玲氏作庭の図面や桂離宮の測量図面などを収録したもので、いわば「重森家の遺産集」。私は、デザインの手配や製作面の打ち合わせを担当した。

8月、『小学館版 / 日本のいけばな』 全10巻刊行開始。

この全集で、私が実質的に原稿依頼・取材などしたのは、3冊(小原、草月、安達)のみ。学生時代に関心を持った草月流が、いまや仕事になっていた。 累計 68冊

私の「ほんらいの仕事」は『千趣会版・世界の女性史』だった。前年から準備していた編集が終了。1月から12月まで、「毎月1冊、職場にお届けする女性史の全集」を開始した。

『千趣会版 / ヒロインの世紀』 全12巻(1年間毎月お届け)。各176pp。1200円?

聖書の中の女性たち 対談 司会:沖由也:ペトロ・ネメシェギvs田中澄江。執筆:秋吉輝男(同級生、立教女子大・ヘブライ語)、佐古純一郎。 写真:沖7枚。イラスト:沖3点(うちカラー2。「アブラハムの旅」などを描画)。

悲劇の女王クレオパトラ 対談 司会:沖由也:森本哲郎vs岸田今日子。執筆:三浦一郎、手塚治虫。 写真:沖10枚(カラー1)。イラスト:沖29点(うちカラー11。「パロス灯台、クレオパトラ像、豪華船」など)。

古代ローマ女性の愛と死 対談 司会:沖由也:秀村欣二vs加藤ロザンナ 執筆:弓削進、梅田晴夫。 写真:沖カラー17枚。イラスト:沖9点(「宮殿復元図」などカラー3)

則天武后と楊貴妃 対談 司会:沖由也:宮川寅雄vs陳舜臣 執筆:駒田信二、弘瀬雄(沖由也のペンネームで、楊貴妃を書く)。 写真:沖17枚(カラー7)。イラスト:沖20点(「長安城カラー復元図」1)。

聖女ジャンヌ・ダルク 対談 司会:沖由也:高田博厚vs永井路子。執筆:堀越孝一、

竹本忠雄。 写真:沖11枚(カラー1)。イラスト:沖4点(カラー2。「ルーアン城」など)。

**海の女王イサベラ 対談** 司会:沖由也:斎藤孝vs小松原庸子。執筆:野々山ミチコ、赤井彰。 写真:沖9枚。イラスト:沖カラー3点。

**ルネサンスの美女たち 対談** 司会:沖由也:会田雄二vs若桑みどり。執筆:中田耕治、種村季弘。 写真:沖16枚(カラー5)。イラスト:沖2点(カラー1)。

**処女王エリザベス1世 対談** 司会:沖由也:福田恒存vs鳳八千代。執筆:松村起、木村治美、フランシス・コナー。 写真:沖11枚(カラー2)。イラスト:沖6点(カラー1)。

**恋と美に生きた女帝たち 対談** 司会:沖由也:大宮真琴vs黒柳徹子。執筆:平井吉夫、中本信幸(兄・恒夫の同級生)、木村浩。 写真:沖10枚。

**王妃マリー・アントワネット 対談** 司会:沖由也:高田博厚vs石井好子。執筆:村上光彦、池田理代子。 写真:沖35枚(カラー3)。イラスト:沖10点(カラー6)。

**アメリカ200年の女性たち 対談** 司会:沖由也:猿谷要vs白石かずこ 執筆:枝川公一(『女性自身』の海外ものの担当編集者)、湯川れい子。 写真:沖24枚(カラー15)。イラスト:沖カラー1点。「H.タブマン像」。

**日本・愛と権力のドラマ 対談** 司会:沖由也:尾崎vs杉本苑子。執筆:加藤瑛子(同級生。額田王)、吉岡勇(友人。北条政子)、南條範夫(淀君)。 写真:沖87枚(カラー67)。イラスト:沖3点。 累計 80冊

「歴史の旅」のページは、毎回紅山雪夫。イラスト:毎回1~2ページの見開きカラーは小島功。カットイラストは志村福治。 写真:沖総計237枚(カラー118)。イラスト:沖総計86点(カラー31)。

.....

この間、数年前から関心を持っていた「徐福」の話に、新人物往来社が興味を示した。これは、『古代史の旅』いらい文通していた、台湾の羅積穂氏が、衛挺生氏の論文『日本神武開国新考』(1950年刊。原文中国語)の日本語訳を始めたことから始まっている。ちなみに、羅氏の妻は日本人で、息子がオートバイ冒険家・上温湯隆だった。思わぬところで、オートバイの縁が芽生えた。

私と羅氏は古代史ファンで、別々に著者(衛氏)と連絡をとり、著者を通じて知り合いになったものである。したがって、共訳になった。これが第3作目(訳書)である。

4月、『新人物往来社版 / 神武天皇 = 徐福伝説の謎』 228pp。1,400円。衛挺生・著。羅積穂・沖由也・共訳。 累計 81冊

出来事 = 1月、ロッキード丸紅ルート初公判 / 8月、文化大革命終結。

### 昭和53(1978) 39歳……………「**实用書への路線変更**」

千趣会は、「もっと売れる企画はないか。1巻10万部以上を目標にしたい」と希望した。そこで、『河出版・女性百科』を思い出して、『**くらしの知恵百科**』全12巻を企画した。直ちにGOサインが出た。総予算は1億円近くだった。

「歴史もの」と違って、流行感覚が要求された。女性向けにカラーページを多くし、モデル、スタイリスト、コーディネーター、流行カメラマンなどを多用し、スタジオ撮影も増えた。人材集めやファッション世界との付き合いに苦労した。翌年2月から刊行を開始した。

第一アートセンター最後の仕事として、『**集英社版 / 写真集・日本の美**』全10巻にも参画した。土門拳、入江泰吉など著名カメラマンの作品集大成の企画だった。写真評論家(桑原ら)の話には関心が薄く、編集実務に協力しただけで、私の編集作品ではない。

**出来事 = 5月、成田空港開港 / 10月、ヨハネ・パウロ2世ローマ教皇。**

## **第三アートセンター社長時代が始まる……………**

以後、社長としての苦労と緊張と喜びの日々が20年間続くことになった。この間、仲間と飲み歩いた飲み屋は、神保町(兵六など)、御茶ノ水から、銀座、新宿(西口、歌舞伎町、2丁目)、池袋、渋谷(シオンベン横丁)など。

### 昭和54(1979) 40歳……………「**惑わず社長に**」

5月、重森ゲーテの「伝統路線」と「鬼の沖・路線」の違いが、経営戦略や社風の違いとなって現れたため、新たに「(株)第三アートセンター」を設立し、代表取締役役に就任した。

『千趣会版 / **くらしの知恵百科**』 全12巻。各192pp。共同価格1300円 / 個人価格1600円。毎月1回、1年間お届けするシステム。

**応急手当てと薬**-医者へ行くまでの家庭治療法 執筆:東京消防庁、鈴木弘文、水嶋昇  
**妊娠と出産の注意** - りっぱな赤ちゃんを産むために 執筆:松山栄吉、高橋悦二郎  
**食器と台所の知識** - そろえ方から手入れのコツまで 執筆:吉沢久子、田村平治、村上信夫

**小部屋の装飾と収納**-家具の選び方と部屋の整頓 執筆:西岡徹、藤井和子、深代典子  
**家具の修理と保存** - 自分でできるやさしい日曜大工 執筆:牧野晃一 鎌倉の友人、東京電力

**服装と小物の常識**-買物から汚れ落としのコツまで 執筆:桂由美、大内順子、吉井洋介  
**実用と趣味の手芸** - 図案で飾る身のまわりの工夫 執筆:鷺沢玲子、エルサ・ム-イェル  
**健康と美容の知恵** - 毎日気になる症状を解決する 執筆:寺沢貞子、五明紀春

**毎日のおそうざい** - すぐ役に立つ基本料理のヒント 執筆:久松育子、波多野須美、村上昭子

**特別なときの料理** - 豊かな食卓のためのこんな料理 執筆:小川忠彦、森村桂、南和子  
**交際と心理の本** - 手紙・電話から性格判断法まで 執筆:加賀乙彦、小山明子、外山滋比古

**困りごとのQ & A** - 知っておきたい法律とお金問題 執筆:渥美雅子、加太こうじ

この全集は、各巻10万部を超え、印税(3%)も大量だった。翌年2月まで続いた。

この間、以前、私が囑託をしていた**学研美術部**との間で、歴史書翻訳出版の話が進行していた。これは、ミラノ・リッツォーリ社の『STORIA UNIVERSALE』という大型のオールカラー世界歴史全集で、元は週刊誌スタイルだった。私が『世界の旅』や『古代史』の全集を手がけていたこともあって、日本語版の編集作業を依頼された。

イタリア語の翻訳者と監修者からの原稿収集、カラー印刷用フィルム 空輸 のチェック、日本版の装丁(道吉剛)など、学研の編集者(竹内)との協同作業だった。専任に採用した編集者(小西治美)と2人で、『くらしの知恵百科』と同時進行。10月から刊行を開始した。

**「学研版 / 図説・世界の歴史」 全6巻。別巻・歴史地図。各巻1万円？**

**古代文明の盛衰** - 文明誕生、古代ギリシア、ローマの興亡 **翻訳監修**:寺田和夫、板倉勝正、小谷仲男、三浦一郎、浅香正、伊藤道治。

**アジア国家の展開** - 古代アジア、世界帝国と東西文化の交流、遊牧民の国家活動 **翻訳監修**:間野英二、小玉新次郎、永田英正、西谷正、礪波護、坂元義種、近藤治、梅原郁など。

**ヨーロッパの形成** - ヨーロッパの成立、教皇と皇帝、ヨーロッパの覚醒 **翻訳監修**:平城昭介、堀越孝一、永井三明、越智武臣、浜田正美。

**西洋時代の開幕** = 三十年戦争、七年戦争、イギリス革命、アメリカ合衆国、啓蒙専制主義、フランス革命、ナポレオン **翻訳監修**:今井宏、服部春彦、遅塚忠躬。

**民族主義の時代** - アジア最後の大帝、ヨーロッパの国民主義、アジアの植民地化と革命 **翻訳監修**:今井博、義井博、廣実源太郎、近藤治、谷口規矩雄、弘瀬裕 友人、岩見宏、重松伸司、井上裕正、堀川哲男、副島照一。

**現代世界の試練** - 第一次世界大戦、両大戦間の時代、第二次世界大戦と戦後の世界 **翻訳監修**:斎藤孝、義井博、木畑洋一、宇佐美滋、藤村瞬一、中西治、木村修三。

**別巻・世界歴史地図** 旧石器時代～1979まで **翻訳監修**:松田知彬。 累計 100冊

**出来事** = 1月、イランの国王亡命 / 3月、スリーマイル島原発事故 / 5月、サッチャー就任 / 6月、東京サミット / 10月、朴大統領暗殺 / 12月、ソ連、アフガン侵攻

**昭和55(1980) 41歳……………「女優と女性作家」**

先年から、**集英社**との企画打ち合わせが続いていた。「日本の著名女性の生涯を、生まれ年によって易経で解説する」という試みだった。「アホなアイデア」だ、と今でも思っているが、小学館の兄弟会社でもあり、販路を広げる意味もあり、有名女性に会えるという興味もあって、引き受けた。窓口は**内藤**編集長。

雑誌『明星』の芸能関係の写真・資料を大いに利用できた。本文原稿は、本人が『自伝』を書くこともあったが、ほとんどはライターを選定して、「伝記」を書かせ、それを本人に見せてOKを取り、写真などの資料をいただいて掲載するという作業だった。『女性自身』の芸能関係のライター仲間がかなり役に立った。

1巻に女性芸術家6人を収録し、総計72人。故人以外は、極力会うように努めた。本人や事務所に企画の説明をし、原稿の了承を得たり、書き換えるなどに手間がかかった。しかし、女優や作家に直接会って、交渉したり、対談したりする面白さがあった。

とりわけ、野上弥生子氏(当時94歳)は、「加賀乙彦さんが書いたらOK」との了承を得て、軽井沢の別荘に加賀氏と2人で訪問。夏目漱石らの歴史的な話も面白かったが、鯉こくの料理や大分の麦焼酎がうまかった。その後、東京成城の自宅も何度か訪れた。

2月、『集英社版 / 十二支別易学解説・女性芸術家の人生』全12巻。各256pp。980円。易学解説・木下一雄。(カッコ内はライター。\*は、私が直接打ち合わせ、あるいは対談した人物。下線は当時の故人である。

子年編・深尾須摩子(進藤純孝)、壺井栄(尾崎秀樹)、\*三宅艶子(自伝)、\*高峰秀子( 沖司会の対談。野一色幹夫)、安達瞳子(鈴木俊平)、森下洋子(斎藤斎)。

丑年編・岡本かの子(円地文子)、寿学しづ(寿学章子)、桂ゆき(自伝)、\*杉本苑子(伊藤桂一)、\*美空ひばり(小西良太郎)、\*桐島洋子(川喜多法子)。

寅年編・与謝野晶子(田中澄江)、東山千栄子(尾崎宏次)、栗島すみ子(吉田智恵男)、\*森英恵(楠見千鶴子)、巖本真理(河原晶子)、\*島倉千代子(草鹿宏)。

卯年編・長谷川時雨(尾崎秀樹)、佐藤美子(自伝)、林芙美子(田中澄江)、水の江滝子(鈴木俊平)、二葉あき子(神谷次郎)、\*安西篤子(生方たつ彥)。

辰年編・杉野芳子(弘瀬裕)、広田多津(坂崎靖司)、\*佐多稲子(長谷川啓)、桑野通子(吉田智恵男)、松岡洋子(松岡励子)、田辺聖子(虫明亜呂無)。

巳年編・村岡花子(安西篤子)、生方たつ彥(自伝)、水谷八重子(佐貫百合人)、\*円地文子(奥野健男)、平林たい子(池田みち子)、山田五十鈴(尾崎宏次)。

午年編・池田理英(工藤昌伸)、田中千代(三谷菜沙夫)、塩月弥栄子(自伝)、高峰三枝子(山田智彦)、いわさきちひろ(滝いく子)、\*岸田今日子(戸坂康二)。

未年編・\*小倉遊亀(竹西寛子)、淡谷のり子(田村隆一)、浪花千栄子(藤本義一)、\*大江美智子(水野泰治)、白石かずこ(自伝)、犬養智子(宮部タキ)。

申年編・樋口一葉(吉田知子)、三浦環(桂木寛子)、吉屋信子(清川妙)、\*田中澄江(自伝)、山口淑子(自伝)、ミヤコ蝶々(自伝)。

酉年編・\*野上弥生子( 沖司会。加賀乙彦)、宇野千代(三宅艶子)、\*山野愛子(自伝)、吾妻徳穂(自伝)、貝谷八百子(斎藤斎)、\*吉永小百合(吉岡勇・友人)。

戌年編・松井須摩子(田中澄江)、五島美代子(斎藤慎爾)、桑沢洋子(犬養智子)、田中絹代(吉田智恵男)、\*安川加寿子(青木和子)、\*石井好子(斎藤斎)。

亥年編・上村松園(池田満寿夫)、宮本百合子(生方たつ彥)、入江たか子(水野泰治)、砂原美智子(自伝)、\*佐藤愛子(原子朗)、\*朝丘雪路(沖司会。弘瀬裕・友人)。  
累計 112冊

.....  
この間、また新規の取引先から声がかかった。福武書店(岡山本社。支社市ヶ谷)が中学生向けの「自習用雑誌」を発売したい、との話だった。そこで、編集プロとしてアドバイスしながら、『中一学習用チャレンジ』の見本を作成した。これは、各種教科書に準拠する形で、「まんがチック」に学習意欲を育てようとする試みだった。 累計 113冊

10月から、『チャレンジ』の「教科部分」のみ編集を手伝った。以降、翌年まで、「中一、中二、中三チャレンジ」約30冊、教科外ページの編集を手伝った。これらは、いわば「賃仕事」であるため、私の編集作品の履歴にはカウントしない。

出来事 = 4月、米、イラン大使館の人質救出に失敗 / 5月、韓国で光州事件 / 7月、モスクワ・オリンピックで米中日がボイコット / 8月、国鉄の累積赤字6兆円 / 9月、イラン・イラク戦争。

.....  
昭和56(1981) 42歳.....「新全集、新事典」

雑誌の手伝いは、基本的に「見本デザイン、パターン作り」が多く、人件費収入だけなので、印税収入のうまみがない。福武書店の仕事は自然に消滅した。

.....  
この間、「旅」の縁で、日本交通公社出版事業部・『旅』の藤原編集長と企画を練ることになった。「創業70周年記念出版にふさわしい全集企画」として、私が得意な「旅」と「歴史」を組み合わせることにした。直ちに契約が成立した。

藤原の勧めで、3人の監修者との打ち合わせ(飲み会?)が続き、翌年5月の刊行に向けて準備が始まった。基本的に、各巻10点ほどの『旅行記』の「ハイライト部分」を収録し、それに、解説、対談、写真、地図などを盛り込むことにした。

監修者の開高健(作家)はアマゾン、ベトナム、ピアフラが得意、田村隆一(詩人)は欧米、インドの旅行記に優れ、長沢和俊(早大教授)はシルクロードの専門家である。

田村(故人)は鎌倉在住なので、私と二次会に移ることが多く、鎌倉で深夜2~3時まで飲み、タクシーで逗子へ。駅前のオートバイで秋谷の自宅まで帰宅...の日々が続いた。

.....  
実は、これと同時進行して、弘瀬との飲み仲間・角田氏(三省堂特販部長)と、「ノベルティー商品(書店で販売しない通販用の商品)の企画」も進行していた。千趣会とは違う販売ルートがあるらしい。4~5万部まで印税はなかったが、「良い実用書」を作れば長期間増刷が期待できそうだったので、契約した。

初回は『医学事典』。ここでも、『女性自身』や『微笑』の実用・医学・健康分野のライター仲間が役に立った。

このころ、私がどんどん新規開拓・契約するので、千賀社長があきれていたようだ。

出来事 = 1月、イラン人質解放 / 10月、サダト大統領暗殺。アラファト来日。

## 昭和57(1982) 43歳……………「歴史と医学」

5月から日本交通公社の全集、6月から三省堂企画(三省堂特販部が独立)の事典が刊行された。つまり、先年から同時進行していた企画が、ほぼ同時発売されたのである。この間、歴史学と医学という二つの世界を行ったりきたりするの、編集者の宿命だった。

『日本交通公社出版事業部版 / 人はなぜ旅をするのか - 旅行記・探検記で構成する図説旅行史 -』全10巻。各320pp。1800円。

馬蹄とどろく”王の道”・紀元前 / 対談 司会・沖由也・長沢和俊 vs 三浦一郎 / 収録作品: 『旧約聖書』(日本聖書協会。秋吉輝男) / 『イーリアス、オデュッセイア』(ホメロス。呉茂一) / 『歴史』(ヘロドトス。松平千秋、山田宗睦) / 『シャカ(ブツダ)の旅』(中村元ほか) / 『アナバシス』(クセノポン。青木司郎ほか) / 『亜歴山遠征史』(フラヴィウス。坂本健一) / 『史記』(小竹文夫ほか) / 『ガリア戦記』(カエサル。近山金次) / 『古事記』(武田祐吉)。 写真: 沖9枚。イラスト: 沖80点。

熱砂と波濤の“絹の道”・1C ~ 9C / 対談 司会・沖由也・長沢和俊 vs 森豊 / 収録作品: 『新約聖書』(日本聖書協会) / 『エリュトウラー海案内記』(村山堅太郎) / 『三国志・魏志倭人伝』(陳寿。井上秀雄) / 『仏国記』(法顕。長沢和俊、杉山二郎) / “突厥と東ローマの使者の旅”(メナンドロス。内藤みどり) / 『大慈恩寺三蔵法師伝』(慧立。彦綜、長沢和俊) / 『万葉集』(折口信夫、犬養孝) / 『唐大和上東征伝』(淡海三船。海野昇雄ほか) / 『入唐求法巡礼行記』(円仁。足立嘉六、渡部武) / 『シナ・インド物語』(アブ・ザイド。藤本勝次)。 写真: 沖6枚。イラスト: 56点(口絵カラー1)。

遥かなる黄金のジバング・10C ~ 14C / 対談 司会・沖由也・阿部謹也 vs 長沢和俊 / 収録作品: 『サガ・赤毛のエイリク』(荒正人) / 『ヴォルガ・ブルガール旅行記』(イブン・ファドラ - ン。家島彦) / 『土佐日記』(紀貫之。三谷栄一) / 『更級日記』(菅原孝標女。西下経一) / 『十字軍』(ルネ・グルッセ。橘西路) / 『義経記』(梶原正昭) / 『長春真人西遊記』(李志常。岩村忍) / 『東方見聞録』(マルコ・ポーロ。愛宕松男) / 『三大陸周遊記』(イブン・バットウ - タ。前嶋信次) / 『テイル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら』(藤代幸一、阿部謹也)。 写真: 沖6枚。イラスト: 沖52点。

海の冒険者・陸の思索者・15C ~ 17C / 対談 司会・沖由也・長沢和俊 vs 松田毅一 / 収録作品: 『瀛涯勝覧』(馬歡、小川博) / “コロンブスの航海記録”(ラス・カサス。林屋永吉) / 『メキシコ征服記』(カスティヨ。増田義郎) / 『マゼランの最初の世界回遊航海』(トランシルバーノ。長南実) / 『日本巡察記』(ヴァリニャーノ。佐久間正ほか) / 『旅日記』(モンテーニュ。関根秀雄、立木淳三) / 『天正遣欧使節記』(デ・サンデ。泉井久之助ほか) / 『徐霞客遊記』(徐宏祖。三木克巳) / 『釣魚大全』(ウォルトン。杉瀬祐) / 『奥の細道』(芭蕉。湯沢賢之助)。 写真: 沖2枚。イラスト: 沖70点。

太平洋と暗黒大陸へ・18C / 対談 司会・沖由也・森本哲郎 vs 長沢和俊 / 収録作品: 『ロビンソン・クル - ソー』(デフォー。平井正穂) / 『海遊録』(申維翰、姜在彦) / 『ベーリングの大探検』(ワクセル。平井正人) / 『青ナイル』(ムーアヘッド。篠田一士) / 『太平洋航海記』(クック。荒正人) / 『菅江真澄遊覧記』(宮本常一ほか、渡部武) / 『北槎聞略』(大黒屋幸太夫談。池田皓) / 『イタリアの旅』(ゲーテ。大野俊一) /

『カナダ横断記』(マッケンジー。熊谷静子、猿谷要) / 『ニジェール探検行』(マンゴ・パーク。森本哲郎ほか)。 写真:沖26枚(カラー1)。イラスト:沖7点。

**庶民の旅と学者の旅・1801～1860 / 対談** 司会・沖由也・長沢和俊 vs 猿谷要 / 収録作品:『東海道中膝栗毛』(十返舎一九。麻生磯次) / 『大西部探検記』(ルイス、クラーク。鄭仁和) / 『黒龍江紀行』(間宮林蔵。中沢不二夫) / 『ビーグル号航海記』(ダーウィン。島地威雄) / 『中浜万次郎の生涯』(中浜明) / 『アメリカ彦蔵自伝』(中川努ほか) / 『アマゾンの博物学者』(ベイツ。大島侃) / 『日本渡航記』(ゴンチャロフ。井上満) / 『天山紀行』(セミョーノフ。樹下節) / 『アンコールワットの発見』(ムーオ。菊池一雅) / 『村垣淡路守範正遣米使日記』(川村善二郎) 写真:沖2枚。イラスト:沖48点(口絵カラー1)

**19世紀の探検レース・1961～93 / 対談** 司会・沖由也・長沢和俊 vs 篠田一士 / 収録作品:『恐るべき空白』(ムーアヘッド。木下秀夫) / 『白ナイル』(ムーアヘッド。篠田一士) / 『アルプス登攀記』(ウインパー。浦松佐美太郎) / 『広八日記』(飯野町史談会。倉田喜弘) / 『浦上切支丹・旅の話』(浦川和三郎) / 『八十日間世界一周』(ヴェルヌ。木村庄三郎) / 『黄河源流からロプ湖へ』(プルジェワルスキー。加藤九祚) / 『南洋探検実記』(鈴木経勲。森久男) / 『日本警見記』(小泉八雲。平井呈一) / 『シベリア隊商紀行』(玉井喜作。小林健祐)。 写真:沖2枚。イラスト:沖16点。

**残された空白への挑戦・1894～1920 / 対談** 司会・沖由也・開高健 vs 植村直己、藤原編集長も同席 / 収録作品:『フラム号漂流記』(ナンセン。加納一郎、鄭仁和) / 『さまよえる湖』ほか(ヘデイン。横川文雄ほか) / 『シャム・ラオス・ヴェトナム三国探検実記』(岩本千綱) / 『チベット旅行記』(河口慧海) / 『槍が嶽探検記』(小島烏水) / 『アラビア縦断記』(山岡光太郎) / 『私は冒険と結婚した』(オサ・ジョンソン。本多喜久夫) / 『世界最悪の旅』(ガラード。加納一郎) / 『フォーセット探検記』(吉田健一) / 『古寺巡礼』(和辻哲郎)。 写真:沖10枚(カラー1)。イラスト:沖11点(復元図1)。

**陸海空”旅行”の時代・1921～1935 / 対談** 司会・沖由也・田村隆一 vs 牛山純一 / 収録作品:『南シナ海の彩帆隊』(リアス。大木篤史) / 『科学より見たる趣味の旅行』(松川二郎。山本鉦太郎) / 『西域への砂漠の道』(ラテイモア。谷口睦男) / 『ニューギニア探検記』(チャンピオン。三好朋十) / 『翼よ! あれがパリの灯だ』(リンドバーグ。佐藤亮一) / 『成層圏にて』(ピカール。富永斉) / 『中央アジア自動車横断記』(ル・フェブル。野沢協ほか) / 『三等旅行記』(林芙美子。岡田喜秋) / 『偉大なる道』(ス McDレー。阿部知二) / 『ナイルの奥地』(ウインダム。中西秀男)。 写真:沖31枚(カラー2)。イラスト:沖11点。

**戦争と平和。そして未来・1936～現代 / 対談** 司会・沖由也・田村隆一・開高健・長沢和俊。藤原編集長も同席 / 収録作品:『悲劇の飛行船』(ムーニイ。筒井正明) / 『大興安嶺探検』(今西錦司。長沢和俊) / 『秘境西域八年の潜行』(西川一三) / 『カチン族の首かご』(妹尾隆彦) / 『わがエヴェレスト』(ヒラリー。松方三郎ほか) / 『非情の山K2』(ハウストン。ベーツ。伊藤洋平) / 戦後日本の旅行・探検・冒険記目録 / 解説・日本人の旅とは。 写真:沖15枚。イラスト37点。 累計 123冊

この全集の大半の仕事は、対談のほかは、過去の紀行文の著作権交渉だった。著者、翻

訳者、その遺族、出版社などのOKを取り、著作権を支払う手間が大変だった。スペイン関係では、ライターの飯塚劭(つとむ)氏(元・学研社員)の協力が大きかった。

毎回対談を行ったが、対談のテープ起こしには、百瀬真樹(姉・百瀬美津の息子)を起用した。写真:沖総計109枚(カラー復元図など4)。イラスト:388点(遺物・遺跡・人物の細密画、楼蘭王国復元図など。カラー2)。旅行・遺跡地図:ほとんど私が作成した。

.....  
6月、三省堂初の企画、『医学事典』が完成した。

『三省堂 / 現代の健康・家庭医学事典』 832pp。二つのサイズで。SS特装机上版3000円? 特装E版1300円? 監修・吉利和。編集委員・黒田善雄、亀田治男、宮下英夫、入江実。執筆協力者約40人。 累計 125冊

このときから、医学ライター(飯田など)、水島昇先生との付き合いが始まり、以後の医学・健康関係出版物で大いに役に立った。これも、私が『女性自身』の実用記事を書いていたためである。医学細密画:すべて沖由也。

この仕上がりと販売実績が好調だったため、直ちに次の『事典』の企画が成立し、契約した。「食事療法を主とする食品事典」である。また、『家庭医学』を分散して、新書版サイズに編成し直して、3分冊作った。これらは、ノベリティー商品らしい販売手法である。

11月、『三省堂 / 生活の健康医学』 352pp。NC新書版。

『三省堂 / 家庭の健康医学』 352pp。NC新書版。

『三省堂 / 成人の健康医学』 352pp。NC新書版。計3冊。 累計 128冊

.....  
11月、千趣会に『くらしの健康百科』を企画し、見本版まで作成したが、市場調査によって、ボツ。「柳の下……」は不成功だった。「毎月1冊、職場の女性にお届けする全集」ではなく、三省堂にならって、「1冊の女性向け医学事典」の方向はないか、と検討し始めた。

.....  
このころ、三省堂本社編集部との接触が始まり、「新書版のシリーズもの / サンレキシカ」が企画された。日本アートセンターともども、アートセンター各社で「得意分野の企画」を出すことになった。第三アートセンターでは、4企画が成立し、準備に入った。

.....  
また、片山修三が経営しているK・I・C思索社(青山)から、個人出版に近い「編集手伝い」の話も舞い込んだ。息子の片山宣彦の知人が作者だという。

医師・石津政雄が、郷里・水戸の維新志士の小説を書いているから、文章・資料・編集をヘルプしてほしい、という。片山には義理があったし、アートセンターはいわば兄弟会社なので、断われなかった。ヤボな頼まれ仕事も、付き合い上、必要である。

.....  
ほぼ50%リライト(書き直し)して、翌春、出版することになった。ま、明治維新の動きには関心があったので、無意味な資料調べではなかったが……。

表紙の「梅」の写真を撮りに、湯島天神まで行ったこともある。

.....  
一方、学研とは、美術部ではなく、受験雑誌「コース」の編集部とも付き合い始めた。

この編集長は、東京大学教養学部時代の同級生・杉崎孝雄で、社内で社長賞をとるほどの「受験ものの切れ者編集者」として有名だった。

「俺が声をかければ、有名予備校の有名講師を起用できる。1セット20万円くらいの受験生向け学習参考書・問題・解答付きの大型システム(学習テープ付き)を作ろう」とのアイデアが、私に示された。

片手間の仕事にしては大型だったが、「まだ余力がある」と判断して、専任の編集フリーターを3人かき集めて、社に常勤させ、スタートした。理数系の問題では、私の姪・附柴恵津子(現・公認会計士。のちに、永島と結婚後、第三アートセンターの経理を担当することになる)も起用して、問題を解かせたりした。

生意気な予備校講師たちにも注文をつけ、録音スタジオ(渋谷)にも必ず立ち会った。

6月、東北新幹線 / 7月、不破共産党委員長。中国、教科書検定問題で正式抗議。商業捕鯨全面禁止 / 11月、上越新幹線。中曽根内閣。

昭和58(1983) 44歳……………「受験もの」

昨年の「仕込み」によって、多様な出版物が刊行された。

4月、『K・I・C 思索社版 / 成破の盟(ちかい) - 明治維新秘話 -』 296pp。石津政雄の小説。1600円。水戸弘道館の志士たち、桜田門外の変、水戸藩と長州藩の盟約などがテーマである。 累計 129冊

5月、『三省堂企画 / 現代の健康・薬用食品事典』 2つのサイズで。SS版。3000円? E版 1400円? 累計 131冊

このころ、千趣会の新企画も模索していた。『ライフサイクル・ブック』全12巻(共同価格650円。個人価格850円)もその一つ。オールカラー12ページのパンフレットまで作って、市場調査したが、数字が悪くてボツになった。

<ボツ企画の巻立て> 眠るまえの本 お風呂を楽しむ本 チャーミングに外出する本 休日を楽しむ本 スポーツライフのための本 キッチンを楽しむ本 四季の美容の本 体の悩みを解決する本 旅とバカンスの本 ふたりの時間の本 本物に強くなる本 文房具とおもちゃの本

そこで、『美しい心と体をつくる事典』全12巻を企画した。「赤ちゃん～痛み」、「遺伝～温泉療法」、「外食～気質」、というように、アイウエオ順に「健康項目」を選び、「見て、読む健康事典」(オールカラー176pp)を目指した。

6月、巻の見本まで作って市場調査したが、イマイチで、これもボツ。編集・人件費、原稿料・撮影費、印刷・製本費などは、すべて千趣会の負担だったが……。

6～10月、『学研版 / 大学入試合格システム』英数国各テープ12本付き。英数国それぞれに「ベーシックハンドブック」「レクチャーブック」「アドバンスワーク」がつく。約40冊。約4000ページ。25万円? 執筆者:駿台予備校、早稲田ゼミ、代々木ゼミなど

の講師。

累計 171冊

これは、あまりに大型企画だったことや、販売上の問題が発生するなど、杉崎の責任問題も生じて、彼は学研を辞めて独立することになった。

しかし彼は、「受験参考書のベテラン編集者」として、受験出版界に売り込みをかけ、私と組もうとした。その結果、2年後には「創育」から、この「合格システム」に匹敵する『大学入試ゼミナール』を刊行することになる。この年から、企画が始まった。

8月、『三省堂企画 / くすりの健康医学』 352pp。NC新書版。 累計 172冊

10月、『千趣会版 / 家庭と女性の医学』 全2巻合本。各480pp。3000円? 監修:小林隆。編集協力:黒田善雄、小林登、松山栄吉。執筆者:約20人。 累計 174冊  
これは、「欄外コラム、上段囲み記事、見開き構成」など、定番の実用事典となった。

11月、『三省堂・サンレキシカ / 全国・科学ゼミナール事典』 監修:西岡秀雄。238pp。新書版。950円。 累計 175冊

この「科学もの」は、「私の独断的な謎リスト」に基づいて、「科学から見た旅」という私の原稿をチェックしてもらったのものである。かねてより『気候700年周期説』を唱えている西岡氏とは、『古代史の旅』いらい親しくしていた。こういう気軽な「うんちく新書」は面白い。

出来事 = 1月、中曽根訪米。「日本列島は浮沈空母」と発言 / 4月、東京ディズニーランド、オープン(各地テーマパーク = 地方財政赤字化へ) / 8月、アキノ、空港で暗殺さる / 10月、田中角栄有罪 / 11月、レーガン来日

昭和59(1984) 45歳……………「雑学とうんちく」

学研の杉崎と親しくなったため、高校生向けの雑誌『Vコース』の『就職ガイド・臨時増刊号』も編集した。これらの仕事も「賃仕事」なので、私の編集作品にはカウントしない。ただ、私は20年前に美術部の囑託だったため、「古巣」に戻った気分だった。

三省堂企画では、ミニサイズ(B7版)の健康シリーズを再編集した。三省堂本社の『サンレキシカ』も刊行が続いた。

2月、『成人の健康・小事典』 『女性の健康・小事典』 『子供の健康・小事典』  
『食べる健康・小事典』 『食事と健康・小事典』 『からだの健康・小事典』  
各192pp。計6冊。 累計 181冊

7月、『三省堂・サンレキシカ / 田村隆一・ミステリーの料理事典(探偵小説を楽しむガイドブック)』 著者:田村隆一。240pp。新書版。950円。 写真:沖由也(10点。表紙カラーも)。イラスト:「コピーライトフリー銅版画」と沖描画(40点)。 累計 182冊

この「ミステリー事典」は、会社が所有していたリゾート・マンション「逗子マリーナ」の一室に、田村氏を「缶詰め」にして、酒を飲みながら、古今東西のミステリー作品について、1冊ずつコメントしてもらおうという編集方法だった。早川書房の若い編集者も呼ばれて参加

した。田村氏は元早川書房の編集長で、アガサ・クリスティーの翻訳でも有名だった。

この「雑談コメント」をもとに、私と早川の編集者が資料を追加し、リライトしながら、原稿が完成し、それを田村氏にチェック・加筆してもらった。つまり本書は、「鎌倉ノンベエ」による「文明批評的な、うんちくミステリー論議」で成り立っていた。

こういう仕事も面白い。親しかった開高健氏には『うんちく料理・酒事典』、植村直己氏には『うんちく冒険・探検事典』を企画していたが、本人たちが死亡し、実現できなかった。

11月、『三省堂・サンレキシカ / 世界・謎と発見事典』 監修：三浦一郎。240pp。新書版。950円。 累計 183冊

これは、『ヒロインの世紀』で知り合った著者に、「テレビ視聴者が好むような、謎の世界を紹介したい」と説き、編集部作成の原稿をチェックしてもらった。

11月、『三省堂・サンレキシカ / 動物の一生不思議事典』 監修：戸川幸夫。240pp。新書版。950円。イラスト：「コピーライトフリー銅版画」と私の描画。 累計 184冊

これは、動物好きの友人・フリー編集者(草間)が「原稿は全部俺が書く」と豪語したために始まった企画である。2人で戸川宅を訪れ、OKを得た。章立ては「動物のセックス、出産・育児、集団、食糧、文化生活」に分類し、原稿チェックはスムーズに運んだ。

出来事 = 3月、江崎グリコ社長誘拐 / 7月、ロサンゼルス・オリンピック。ソ連圏15か国不参加 / 10月、インディラ・ガンジー首相暗殺 / 12月、香港返還。

昭和60(1985) 46歳……………「第二の受験もの」

6月、『三省堂企画 / 現代の健康・食品百科事典』 640pp。2つのサイズで。SS版3000円? E版1300円? 編集委員：市川富夫、西貞夫、麻見安彦、水嶋昇、阿部宗明、上野川修一。執筆：約5人。時には、料理研究家を自称する遠藤(開沢)康子(小学校の同級生)や原田甫(友人の作曲家)なども起用した。イラスト：志村福治。各食品の成分表(円グラフ)が特徴である。 累計 188冊

10月、『三省堂企画 / 現代食品事典』 320pp。NC新書版。上記の縮刷版。 累計 187冊

『創育 / 大学入試ゼミナール』 箱入りセット(厚さ11cm)。英数国。25万円? 教材は以下の通り。

- 基礎力判定問題集(32ページ)
- 同・解答・解説(64ページ)
- テープ講義テキスト(98ページ)
- 講義テープ(12巻24講座)
- 同・解答・解説
- 合格力養成添削問題(12回)・・・3週間で採点・添削。
- 共通一次対策問題集(36ページ)

同・解答・解説(68ページ)

二次・私大対策問題集(64ページ)

同・解答・解説(160ページ)

自宅模試・合格判定添削問題(6回)・締切日指定。

TOTAL REFERENCE HANDBOOK

累計 202冊

これは学研を辞めた杉崎の仕掛けで成立した企画である。約15冊の編集に協力した。

出来事 = 4月、NTT、日本たばこ発足 / 5月、男女雇用機会均等法 / 7月、南アフリカで黒人暴動非常事態 / 8月、日航ジャンボ機墜落。520人死亡

昭和61(1986) 47歳……………「精力全開」

昨年末から、会社の近くにあった開隆堂の赤根祥道氏と知り合いになり、「年末ボーナス期に向けて、大型企画をやらないか」との打診があった。

テーマは「英語教育」である。「全国英語教師の授業実践記録」を集めて20巻とし(1巻に10数人を収録)、「日本の英語教育史」を8巻追加する、というものだった。

### <最速、最大の全集が完成>

執筆者は総勢300人に及び、編集期間は10か月もなかったが、急きょ6000万円近くの契約を結んだ。全28巻を完成するには、やや無謀だったが、あながい楽観的だった。

紹介された私立高校の英語教師(杉本)の協力を仰いだ。まず、沖縄から北海道まで、全国英語教師のリストアップに始まり、毎日、電話・手紙による原稿依頼、催促、収集を続けた。雑原稿が舞い込んで無駄にせず、「コラム」に使用するなど、すべて省エネ・合理化を図った。時には「対談」も交えて、ページを埋めた。

契約直後から、臨時に常勤してくれる編集スタッフを集めた。仲間の編集プロダクションを糾合したり、フリーターから知り合いのホステスまで採用した。相手(執筆者)は数百人になるので、「原稿催促のマニュアル」を作って、素人編集者でも交渉できるようにした。

山と溪谷社から独立していた森林書房(渡辺社長)からは、社長の姪を紹介され、私の秘書役になった。

編集の後半期には、会社に泊り込む毎日となり、家主からにらまれるほどだった。結局、この全集は、私の編集生活の中で、「最速で、最大量の編集作品」となった。歯をくいしばっていたためか、この年に何本も歯が抜けた。

6月、『開隆堂 / 実践英語教育大系』 全28巻。付・営業マニュアル。

PART 英語教育と英語教師 日本の英語教育 教師の基本資格 教師の役割とは 教師と生徒の関係 教師の能力向上

PART 教材の使い方 教科書のプラン 辞書・事典の指導 自主教材の工夫 副教材の工夫 語学用機器の選び方

PART 授業の第一歩 カリキュラム計画 グループの授業 機器による授  
業 生きた英語との出会い

PART テストの作り方 学力評価の方法 4技能のアップ 学力差の解決  
法 受験英語と実用英語

PART 21・日本の英語教育の歩み 22・日本の英語教科書の歩み 23・英語文  
化と日本人 24・民主化時代の英語 25・国際化社会と英語教育

PART 26・英単語・熟語・例文集 27・欧米文化の生活習慣 28・各種英語教育  
の実例集 累計 230冊

.....

かたや、医学関係の仕事を目ざされ、池田書店(生駒編集長)から、「家庭でできる病  
気療法」の企画を打診された。これもやや無謀だったが、契約した。神戸の安井先生の  
医院へは、小川と飛行機でトンボ帰りすることもあった。

- 10月、『池田書店 / 腎臓病の家庭療法』 980円。監修・安井武義。
- 『池田書店 / 肝臓病の家庭療法』 980円。監修・成田昌道。
- 『池田書店 / 高血圧の家庭療法』 980円。監修・水嶋昇。
- 『池田書店 / 胃腸病の家庭療法』 980円。監修・平塚秀雄。
- 『池田書店 / 心臓病の家庭療法』 980円。監修・柏木政伸。 累計 235冊

これらは、親しくしていた医学ライターの協力で実現した叢書である。つまり、監修者には執筆させずに、ライターの原稿をチェックしてもらうやり方で、安く、早くできた。これは、私の「医学もの編集の定番スタイル」だった。イラストは、いつもの志村福治。

出来事 = 2月、マルコス政権崩壊 / 4月、チェルノブイリ原発事故 / 5月、東京サ  
ミット。ダイアナ妃来日 / 11月、国鉄民営化 / 12月、防衛費、GNP1%突破。

.....

昭和62(1987) 48歳.....「良きマンネリ」

『千趣会 / 妊娠・出産の本』 2冊合本。 累計 237冊

出来事 = 1月、神戸の女性、初のエイズ患者。ビートたけしフライデー乱入事件。  
関西新空港着工 / 2月、NTT株160万円 / 4月、JR誕生 / 9月、天皇、入院。

.....

昭和63(1988) 49歳.....「英語と映像」

『女性芸術家の人生』の売れ行きが不振だったためか、集英社から、「お小遣い稼ぎの  
仕事」として、女性向けのマンガ新書(Comics for Lady's Life)の編集を依頼された。

10月、『集英社 / 魅・せ・る・スキンケア&メイク』 224pp。880円。監修:黒木まり子。

.....

思索社の片山宣彦社長と堀井清から、「編集費が安くて、思索社向けの企画」との注文があった。そこで、「似たもの生物」を集めて、その異同を示し、私がイラストを描いてしまう、というアイデアを思いついた。安く、早く、趣味と実益を兼ねた編集方法である。

1月、『思索社 / 動物ウォッチング図鑑』 224pp. 1400円。監修: 杉浦宏。

7月、『思索社 / 魚貝ウォッチング図鑑』 224pp. 1400円。監修: 杉浦宏。

翌年1月、『思索社 / 鳥ウォッチング図鑑』 224pp. 1400円。監修: 杉浦宏ほか。

累計 241冊

当時、杉浦宏氏は、東京恩賜上野動物園飼育課長補佐で、ラジオの子供相談で人気があった。中野の自宅まで、よく日参し、主にイラストをチェックしていただいた。

.....

一方、『英語教育』の関係から、河合楽器の「英語発音矯正システム」の研究者と知り合いになり、LDを解説する『教則本』の依頼があった。国際武道大学の村川久子氏の指導により、浜松の工場とも打ち合わせを続け、録音スタジオ(目黒)にも日参して、完成した。「PROTS」とは、「Pronunciation Training System」の略である。

『河合楽器 / PROTS・アメリカ英語発音トレーニングシステム』 5巻。各2700円。付、LD(レーザー・ディスク)。各2万3,400円。総計、13万500円。監修・村川久子。

- Lesson1 /p/ /t/ /k/
- Lesson2 /b/ /d/ /g/
- Lesson3 /r/
- Lesson4 母音+ /r/
- Lesson5 /r/ クラスタ
- Lesson6 /l/
- Lesson7 /l/ クラスタ (rとlのまとめの練習)
- Lesson8 /s/ /z/
- Lesson9 /θ/ /ð/
- Lesson10 /f/ /v/
- Lesson11 /ʃ/ /ʒ/
- Lesson12 /tʃ/ /dʒ/
- Lesson13 /n/ /m/ /ŋ/
- Lesson14 /w/ /j/
- Lesson15 /h/ /hw/
- Lesson16 /i/ /ɪ/
- Lesson17 /e/ ([e<sup>h</sup>]) /ɛ/
- Lesson18 /æ/ /a/ /ʌ/ /ə/ /ɜ/ /ɚ/
- Lesson19 /o/ ([o<sup>u</sup>]) /ɔ/
- Lesson20 /u/ /ʊ/

Lesson 21 /au/ /ai/ /ɔi/ /ju/

Lesson 22 フラップ音 /r/

Lesson 23 グロツタル・ストップ

Lesson 24 リンキング(音結合)

累計 246冊

これは、河合楽器が開発した「音声分析アナライザー」から発した企画である。ボイス・パターンを画面で見ながら、自分の発音のクセを確認する器械が中心。これにテキストやLDをつけて、発音練習する仕組みである。テキストの会話例文には、バーコードが印刷されており、呼び出されたLD画面を見ながら、会話シーンや舌の動きを確認できる。

8月、『経済界 / 英会話三日坊主に捧げる本 - ジェスチャー - 表現があなたを変える』220pp。新書版。730円。監修：エドワード・C・D・スチュアート(ICU教授)。イラスト：志村福治。 累計 247冊

これは、開隆堂役員・赤根氏の紹介で、『RYUBOOKS』のシリーズとして作成したものである。編集方法としては、約15人の外国人に「コピーフリー」の銅版イラストを見せ、そのジェスチャーの意味を聞いた。これらのコメントを集めて編集したものである。

1月、『経済界 / ビジネスマンのための開き直り健康法(体調を万全に保つ117カ条)』244pp。1200円。赤根祥道と沖由也の共著。自著4作目。 累計 248冊

これは、いわば「頼まれ仕事」である。かねてより、開隆堂・赤根氏が宗教活動をしており、「天寿百歳クラブ」を主宰していた。「沖の思想・体験が面白い。共感する。医学情報を加味した本にできないか」との赤根氏のアイデアで、いつもの酒飲み話に体験談や私の“健康持論”を加えて、数か月で書き上げた(主に、姉・千津の軽井沢別荘で)。

赤根は執筆していない。自著の数を増やして、100冊にしたかっただけである。

出来事 = 9月、ソウルオリンピック / 10月、ベト・ドクちゃん分離手術 / 11月、千代の富士46連勝(翌年、通算965勝新記録)。1億円を全国市町村にバラマキ

昭和64(1989) 50歳……………「健康か？」

6月、『三省堂企画 / 現代の健康・家庭運動ツボ療法事典』768pp。2つのサイズで。SS版。E版。編集強力：黒田善雄、水嶋昇、大塚恭男、赤根順子(開隆堂・赤根氏の娘)。執筆協力者：約20人。イラスト：沖由也、志村福治。 累計 250冊

これは、種々の資料から、多くの健康法・運動法を集めたものである。「経路・経穴図」を別刷付録にするなど、工夫を凝らした。今でも、私自身の健康づくりに役立っている。

10月、『集英社 / 知的にシェイプダウン - 歩くだけでもこんなにやせる』240pp。新書版。800円。著者：鳥居比路。 累計 251冊

集英社・内藤氏の紹介で、原稿をリライトして、写真・イラストを追加した。広島でのフィットネスクラブでの出版記念会には、集英社の人と出席して、牡蠣鍋を食べ、一泊した。

12月、『池田書店 / はじめてのお産百科』 312pp. 1500円。監修・松山栄吉。イラスト:大島佐和子、鵜飼栄子、志村福治、沖依子(兄・恒夫の娘)、沖由也(医学図)など。 累計 252冊

当時、類書が多かったが、敢えて「ぶつける企画」として、ユニークな編集が期待されていた。私なりの「見開き方式」「コラム形式」「イラスト解説」などを多用し、好評を得た。このため本書は、池田書店の次期企画(はじめてシリーズ)に好影響を与えることになった。

出来事 = 1月、天皇崩御 = 平成元年 / 2月、ホメイニが『悪魔の詩』の作者に処刑命令 / 4月、竹下首相、リクルート疑惑で退陣 / 5月、朝日新聞カメラマン、サング捏造写真 / 6月、天安門事件。美空ひばり死去 / 12月、米、パナマ侵攻。

.....  
平成2(1990) 51歳.....「天才の遺産」

1月、『開隆堂 / あなたの青春を大切に - 高校生の新しい性とからだの知識』 160pp. 670円。監修:松山栄吉、黒島淳子、大宅映子。 累計 253冊

開隆堂役員・赤根氏の要請による副読書。生徒の会話を中心にして、医師が答える形式をとった。大半の下原稿は、私が執筆した。

.....  
5月、『小学館版 / ふっとばせ! 糖尿病』160pp.950円。監修:池田義雄。絵:如月次郎  
『小学館版 / ふっとばせ! 高血圧』160pp.950円。監修:水嶋昇。絵:すみだ京  
『小学館版 / ふっとばせ! 心臓病』160pp.950円。監修:柏木政伸。絵:きり光  
乗 累計 256冊

以上は、若い「健康志向読者」に向けて、「まんが・ホームドクター・シリーズ」を新設したもので、のちに『エイズ』を作った。このころ、水嶋昇先生(故・新橋琴平診療所所長)は“医学原稿チェック監修者”として常連となっていた。

.....  
5月、『三省堂企画 / 運動の健康医学』 400pp. 新書NC版。 累計 257冊

6月、『三省堂企画 / 現代の健康・家庭食事療法事典』 640pp. SS版3000円? E版1300円? カラー8ページ。編集協力:水嶋昇、井上アヤ子、安井武義、市川富夫、式田和子、など。沖順子(兄・恒夫の妻)も。 累計 259冊

これは、病気別食事献立、症状別食事療法、年代別・性別の食事、食品の栄養・効果などに分類して図解したもの。イラスト(手順、材料、料理):沖総計 450点。

.....  
11月、『学芸図書 / 建築家レオナルド』 全2巻。総ページ510pp。カルロ・ペドレッティ著。翻訳:日高健一郎、河辺泰宏(下訳協力:石黒盛久ら6人)。 累計 261冊

これは、ミラノ・リッツォーリ社の『LEONARDO ARCHITECT』の翻訳書で、『図説・世界の歴史』いらい付き合っていた学研美術部の仲介によるものである。

実は、富士プラント・アルコという床暖房の会社(西新宿)があり、その専務の奥さんがレオナルド・ダ・ビンチの大ファンだった。彼女がこの本の所在を知り、「ぜひ出版したい」と希望した。そこで、「学芸図書」という出版社をでっち上げて、オリオンを通じて翻訳権を取得。私が編集することになったものである。

イタリアから送られたフィルムを、凸版印刷と厳密に点検し、レイアウトするのが基本作業。一方、翻訳原稿を取りに、小川敦子が高速バスで筑波大まで何度も通った。

12月、『池田書店 / はじめての育児百科』 224pp. 1500円。監修:高梁悦二郎。協力:岡本暁。「はじめての - シリーズ」の第2弾。 累計 262冊

出来事 = 1月、天皇戦争責任発言で長崎市長狙撃 / 2月、ネルソン・マンデラ 釈放 / 8月、公定歩合6%。平均寿命世界一更新。男75.91、女81.77

平成3(1991) 52歳……………「力学に開眼」

6月、『三省堂企画 / 地球にやさしい消費生活事典』 672pp. 2つのサイズで。SS版 3000円? E版1300円? イラスト:沖由也。ライター:5~6人。 累計 264冊  
これは、種々の新聞記事、研究論文、団体資料などを取材・リライトしながら、環境の問題点を収録したもの。かねてより麻雀仲間だった式田和子さん(月刊誌『くらしの研究』主宰)にも協力費用(40万円)を払って、「くらしの知恵記事」の転載をOKしてもらった。

『千趣会 / 家庭と女性の医学』 3冊合本。

家庭の医学 FAMILY CLINIC 336pp. 監修:小林隆。編集協力:黒田善雄、小林隆、松山栄吉。

女性の医学 WOMEN S CLINIC 352pp. 監修:小林隆。編集協力:黒田善雄、小林登、松山栄吉。

健康を保つ事典 HEALTH & WELLNESS 352pp. 監修:水嶋昇。編集協力: 柏木政伸、松山栄吉。 累計 267冊

これらは、私の「医学書編集の経歴」を認められて実現したもの。「見開き単位、上段カコミ記事、袖の一口メモ、図解、付録ページ」など、実用書編集のテクニックを網羅した。

8月、『新技術開発センター / 四大法則によって頭脳開発ができる - 問題解決強化書(PSS = Problem Solving System by Scientific Way of Thinking)』 224pp. 板倉・沖の「解説テープ」付き。2万9000円。監修:板倉聖宣。協力:鎌田勝。著者:沖由也(MAC = Movement & Art Center)代表。自著第4作。

累計 268冊

この企画は、新技術開発センター社長・山城隆(飯塚から紹介された)が注目していた『不思議な会社』(著者:鎌田勝)から始まる。

この会社は名南製作所(長谷川克次社長)という名古屋の製材機械の製作会社で、「F = ma」というニュートン力学の基本原則をビルの屋上に掲げるほどの「力学ファン」だった。全社員が物理学を学び、給与を自分で決め、株主になり、職制もない、しかも、高収益というニクな会社である。この会社を鎌田が紹介し、それを読んだ山城が惚れた。

ニュートン力学を長谷川に教えたのが、板倉聖宣氏だ。国立教育研究所・理学博士。実は、東大教養学部教養学科(科学史)の先輩だった。

山城は、長谷川・板倉の「力学的な経営感覚」に関心をもち、私と鎌田の力で、コンサルト業・出版業に活かそうと考えた。山城・鎌田・沖の3人で、長谷川の話聞きに、名古屋へ行ったこともある。私は私で、目黒の教育研究所を訪れ、板倉と親しく接触した。こうして煮詰まったのが、上記の企画である。

『テクノ/問題解決パワーアップコース』 通信講座3ヶ月コース。受講料:1名3万5000円。3名以上3万2000円。担当講師:沖由也。自著第5作。 累計 269冊

これは、平成3年11月から平成4年2月まで、「物理学・四大法則活用の画期的“頭脳開発”講座」と銘打って宣伝したもの。上記『問題解決強化書』を利用しながら、以下の項目に関する問題を出し、私が解答するというシステム。テクノは、新技術開発センターの子会社で、飯塚の仲介・提案によって、この企画が成立した。実際には、あまり周知されず、このプログラムを社員研修教育用の公開セミナーとして活用することに切り替えた。

創造力・開発力 弁別力・判断力 決断力・判定力  
実行力・行動力 説得力・攻撃力 安定力・守備力

12月、『池田書店/心とからだのすべてがわかる - 女性の医学百科』 224pp。1500円。協力:松山栄吉、水嶋昇。 累計 270冊

これは、「はじめての - シリーズ」と同版・同形式の第3弾で、これもドル箱になった。

**出来事 = 12月、ゴルバチョフ辞任 = ソ連崩壊。**

平成4(1992) 53歳…………『教育と啓蒙』

3月、『三省堂企画/地球にやさしい暮らしの事典』 352pp。特装NC版。 累計 271冊

これは、『消費生活事典』の中から、省エネ、リサイクル、環境保全、ごみ処理などをピックアップして、再編集したものである。

5月、『池田書店/いざというときすぐ役立つ - 救急ハンドブック』 96pp。ハンディ版。980円。監修:溝田弘。イラスト:小林賢司。 累計 272冊

これは、アウトドアの旅行者向けに作った“携帯用の便利本”である。これが、翌年の『家庭救急百科』の企画に結びついた。

5月4日、『MACコンサルタンツ/ダイナミック自己啓発法』 96pp。非売品テキスト。著者:沖由也。協力:板倉聖宣、水嶋昇。自著第6作。 累計 273冊

これは、『問題解決強化書』とは別に、講義・通信添削用として、テキスト化したもの。私がワープロで打ったものを、53歳の誕生日に合わせて、印刷した。「力学3法則」を、以下の6つの法則に再編成したことが特色である。

<自己啓発の3法則> 運動の法則 合理・超合理の法則 統計力学の法則  
<人間関係の3法則> 作用反作用の法則 三段論法の法則 有機体の法則

東京では日本酸素など数回。三重県農協にも呼ばれて、講義をした。一度は、板倉先

生と一緒に講義したこともある。すべて飯塚の仕掛けによるものだった。

11月、『開隆堂 / 学習の友1 - SUNSHINE 準拠・英語学習書』 216 pp. 1900円。  
『開隆堂 / 学習の友2 - SUNSHINE 準拠・英語学習書』 208 pp. 1900円。  
『開隆堂 / 学習の友3 - SUNSHINE 準拠・英語学習書』 198 pp. 1900円。  
累計 276冊

この3冊は、開隆堂が神田から本郷に移転してのちの仕事で、いわば、「英語教科書のアンチヨコ」。当時は女性社長に代わり、赤根氏の影響力も薄くなっており、「人件費程度の仕事」にしかならなかった。しかし、教科書の英語すべてを「総ルビ」にしたり、私の語学体験を「おもしろ囲み記事」にするなど、色々の工夫を楽しむことができた。

出来事 = PKO法成立。11月、貴花田が史上最年少で優勝(宮沢りえと婚約 解消、の事件も) / 10月、ルイジアナで服部君誤射殺さる / 天皇皇后訪中。日本軍の行動について、「多大の苦難 ~ 私の悲しみ」と表現。

平成5(1993) 54歳……………「定番の仕事」

5月、『池田書店 / 食べる・飲む・塗る…にんにく療法』 240 pp. 1200円。監修:水嶋昇。イラスト:志村福治・沖由也(148点)。 累計 277冊  
これは、類書・健康雑誌・資料・取材によって、私がほぼ執筆・構成し、水嶋先生にチェックしてもらったものである。いつもの編集スタイル。

6月、『小学館 / AIDS(エイズ) - これだけは知っておきたい』 144 pp. 950円。監修:伊藤章。マンガ:北見けんいち。 累計 278冊  
これは、「まんがホームドクター・シリーズ」として編集したもの。

9月、『池田書店 / いざというときすぐに役立つ - 家庭の救急医学百科』 304 pp. 1980円。監修:溝田弘、水嶋昇。 累計 279冊  
これは、「はじめての - シリーズ」形式の第4弾である。

出来事 = 1月、皇太子妃に小和田雅子内定 5月、結婚。外人初の横綱に曙 / 4月、天皇皇后、歴代初の沖縄訪問 / 6月、雲仙普賢岳で火砕流。

## 高知県四万十市(旧・中村市)名鹿へ事務所移転……………

50年間の東京生活にサヨナラして、単独、高知県(父の故郷)に新天地を求めた。ちょうどバブルがはじけて不景気になったところで、出版編集の仕事にカゲリが差しはじめていたためでもある。いわゆる「リゾート・オフィス」。

平成6(1994) 55歳……………「さよなら東京」

2月、『日本文芸社 / ニュートンの知恵』 240 pp. 自著7作目。 累計 280冊

これは、会社のすぐ近くにあった日本文芸社の編集者と知り合いになり、私の「ニュートン力学による物の考え方・見方」に共感して、発売してくれたもの。『ダイナミック自己啓発法』を基本にして、やさしく「処世法・健康法」として書いたものである。

5月、東京神田の事務所をすべて中村市(現・四万十市)へ引っ越した。これで8回目の引越し。生地・和歌山～東京～熊本～東京の3回を入れると、総計11回引っ越したことになる。事務所の引越しも入れると、軽く20回は超えるだろう。

新築の家はまだ7割しか完成していなかったが、電話工事は済んでいた。ほぼ完成していた納屋(約20畳)に寝起きしながら、仕掛かっていた仕事を続けた。

10月、西尾兼義(従兄弟の子)の世話で、名鹿集会所前の土地約6000坪を購入(約1800万円)。以後、買い足して約8000坪以上になり、2007年現在、工事残土で谷間を埋め立て中。ほかに、近くのヒノキの山や大岐海岸に100坪など、不動産が増えた。

『集英社版・学習漫画 / 日本の自然 - なぞとふしぎ』 144pp。980円。監修:西岡秀雄。立案・構成:沖由也。漫画:下柘棚正之。

『集英社版・学習漫画 / なぜなぜおもしろ実験室』 144pp。980円。監修:板倉聖宣。立案・構成:沖由也。漫画:大竹豊。 累計 282冊

この2冊は、東京ですでに着手していたものである。『女性芸術家の人生』いらい親しかった集英社の編集者(内藤)から「学習まんがのアイデア」を求められ、私が敬愛する著者2人を選んだ。西岡秀雄氏は『古代史の旅』いらいの付き合いで、当時は大田区立郷土博物館長だった。板倉聖宣氏は、ニュートン力学の師である。

2冊とも、私がまず「ラフのまんが」を描いて、先生たちに見せ、チェックされたものを漫画家に描かせるという方法をとった。元原稿を私が描いている、という意味では、私の著作に入る。大工が仕事している傍らで、大声で漫画家や印刷所と電話したことが懐かしい。

12月、『池田書店 / 女性の医学小事典』 224pp。新書版。980円。監修:松山栄吉。これは、アート印刷社(マッチャン)が企画して、私の編集物を再構成したもの。「編集協力:第三アートセンター。医学イラスト:沖由也」として出版した。私が東京からいなくなるのを狙っていた企画かもしれない。これも、私の“半作品”だ。 累計 283冊

出来事 = 金日成死去。日本人初の女性宇宙飛行士に向井千秋 / 5月、長野法相「南京大虐殺はでっちあげ」発言で辞任 / 6月、PL法 / 9月、関西空港完成

平成7(1995) 56歳……………「悪夢の都会」

2月、『保健同人社 / 元気な赤ちゃん(若いママのための育児ガイド)』360pp。2200円。監修:岡本暁。 累計 284冊

保健同人社社長・大渡肇は、日本電気研修生だったころの同期生で、父の死後、私の

ように退社し、父の医学関係出版社を引き継いだものである。何かのパーティーで旧交を暖め、「俺の出版編集を手伝ってくれ」となった。移転後初の仕事で、2月に1回ほどは上京する日が続いた。

カラー写真撮影や資料収集は、すべて中村市(現・四万十市)のベビーショップで行い、料理・医学関係のイラストはすべて沖が作成して、印刷所に郵送した。

.....

このころ、東京の兄弟会社・第一アートセンター(田中昭三)から電話で、四国遍路の取材を依頼された。日本交通公社の「JTBキャンブックス」の『四国八十八カ所めぐり』を編集中だったのである。早速、オートバイで下の加江(しものかえ)の安宿(あんじゅく)を取材した。歩き遍路さんを5、6人つかまえて、撮影し、遍路の「動機」を訊ね、この原稿を東京へ送った。「取材協力:沖由也」のみで、謝礼はなかったが、面白かった。

.....

8月、『三省堂企画/現代家庭法律事典』704pp。2つのサイズで。SS版3000円? E版1400円? 監修:阿部三郎。編集委員:小山勲、小杉公一。執筆協力:5~6人の弁護士。イラスト:志村福治。 累計 286冊

これは、高知移転いらい初めて、三省堂企画に企画し、編集したものである。日弁連会長の阿部三郎氏は、当時、オウム教裁判の国選弁護士代表だったが、東京の事務所へ監修の依頼に伺い、了承を得た。上京中は、他の弁護士らとも、効率よく打ち合わせた。でないと、高知~東京の旅が無駄になる。

原稿はすべて私が書き、それを東京の弁護士たちに送ってチェックしてもらう方法だった。「買物・契約」の項だけは、東京のライター(飯塚)に依頼した。完成間近になって、刑法の条文がカタカナからひらがなになったため、急きょ組み替えるという騒ぎもあった。

**出来事 = 村山首相談話「植民地支配と侵略をお詫びする」。**

**とは言っても、その後の首相も国民全体も、謝罪の気はほとんどなし?**

**出来事 = 1月17日、阪神・淡路大震災。死者5,500人(6,400人?) / 3月20日、地下鉄サリン事件。死者11人。麻原ら逮捕。**

**私が東京を離脱した直後に、二つの天災・人災が起きた。私は「溺れる船(都会)から早めに逃げ出したネズミ」なのかもしれない。**

.....

**平成8(1996) 57歳.....「裁くのは俺だ」**

2月17日、兄祐之死亡。64歳。遺言により、高知医大に献体手続きをした。

時折り法律相談を受けることになった。墓の賃貸料請求、製塩所の会社分裂、土地の隣地確定などの騒動だ。中村市には弁護士が1人しかいないので、皆が悩んでいる。「権利の濫用、公序良俗違反、不法行為」などの用語を教えるだけでも喜ばれる。

.....

**高知新聞幡多支社(島本正人)の取材を受け、11月22日号の「続・土佐が好き / IターンUターンの仲間たち 24」という7段コラムに掲載された。見出しは「安全・便利・快適に反発 / 緑に囲まれ仕事も進む」など(絵を制作中のカラー写真と共に)。**

実は、私は和歌山県生まれなので、Uターンにはならない。しかし、父親が高知県中村出身なので、Iターンでもない。ヘリクツを言えば、「Iターン」ではないだろうか。

出来事 = 社民党(社会党改名)、民主党(鳩山、菅) / 小選挙区比例代表並立制による衆院選挙 / ペルー日本大使館襲撃。

平成9(1997) 58歳……………「異常の予感」

7月、『池田書店 / はじめての妊娠・出産・育児百科』 416pp。2000円。監修：高橋悦二郎、水嶋昇、松山栄吉。 累計 287冊  
これまでの2冊の合本で、編集はラクだった。これも長期間増刷した。

出来事 = 香港、中国に返還 / 消費税3% 5% / 北朝鮮に金正日書記、韓国に金大中大統領 / 5月、神戸小学生殺人事件 少年少女の崩壊現象へ / 11月、山一証券廃業。社長「社員は悪くありませんから～」 以後約10年、経営者のモラルハザード事件が相次ぐ。

平成10(1998) 59歳……………「絵画の世界へ」

6月、我が家の「アトリエ(約20畳)」が完成した。それまで、庭に放置されていた「観光バス(椅子を取り払って、カラオケ・麻雀用になっていた)」がアトリエ代わりだったが、これで大きな絵を置くことが可能になった。だが、ベニヤ板30数枚を壁に貼ったら、すぐ一杯になった。バスは、レッカー車で1キロ先にある、私所有の空き地まで運んだ(約10万円)。

出来事 = 長野冬季オリンピック? 郵便番号5桁から7桁へ / 市町村合併特別法 = 「平成の大合併」 / インド、パキスタン地下核実験 / 北朝鮮、テポドン発射 世界的に、「抑止力という名の暴力思想・政策」が顕著に。

平成11(1999) 60歳……………「再生 = ルネサンス」

3月26日、オートバイ(ホンダCB250RZ)で、乗用車と衝突事故。明らかに相手(JA女性)の非だったため、約12万円補償された。後遺症はない。

5月13日、長女・千絵が彼氏(佐々木)と東京からドライブしてきた。婚約旅行らしい。またこのころ、次女・久美も、女性4人でオートバイ・ツーリングしてきた。1泊させ、翌日、足摺岬まで私が先導・案内し、コーナリングの技を伝授した。この程度の“親マネ”なら許せる。

7月、『保健同人社版 / 各科・専門のお医者さんによる - <2000年版> - 薬と病気の本』 992pp。2250円。橋本信也・編集。 累計 288冊

これは、慈恵医大の北村正樹薬剤部室長の「薬コードリスト」をもとにして、私が「病気と薬の関係」に関する原稿を集めて編集したもの。印税対象にはならなかったうえ、時に上京して原稿を催促するなど、あんがい手間がかかった。

10月、『三省堂企画 / 最新家庭医学事典』 848pp。2つのサイズで。SS版。E版。監修：吉利和。編集委員：黒田善雄、亀田治男、宮下英夫、入江実。 累計 290冊  
これは、昭和52年に刊行してから20年近く経っており、「最新医学知識」を盛り込むべく、改訂作業を行ったものである。当時の著者が死亡していたり、肩書きが変更していたり

したので、連絡・訂正に手間を要した。また、新原稿の依頼・収集、差別語(痴呆症、精神分裂病)を改めたり、新興(イメージング)ウイルスにもページを割くなど、目次から索引まで、全ページ再編集に近い仕事だったが、なんとか高知県での作業も可能だった。

結果として、これが会社としての最後の編集作品になった。

出来事 = 通貨「ユーロ」登場 / 国旗・国歌法成立 = 日の丸・君が代という「暴力の表徴」が是認される方向(右傾化)へ。

## 出版編集から「問題語評論」と「絵画製作」に専念……………

還暦を期に、編集の仕事を中止した。2007年5月現在、株式会社第三アートセンターの解散を進行中である。また、正式に離婚し、孤独生活を楽しみ始めた。「隠遁」ではなく、「陽遁」と心得、人生の集大成として、「文章と絵のルネサンス」を図ることにした。

### <「言葉」を考えたい>

編集の経験からか、最近では、あらゆる誤解や違和感、トラブルや事件の原因は「言葉」ではないか、と考えている。また一方で、人生の喜びも「言葉・イメージ」に左右されるという思いも強い。とすれば、人生は「思い込み」であり、「冗談」なのかもしれない。

当面気になるのは、「正義、平和、自由、平等、愛、民主主義」などの「言葉」である。各人が勝手にイメージして使うために、誤解や争いが生じている。911テロや民族紛争はもとより、政治の貧困も、家庭や学校の崩壊も、親子や恋人のトラブルも、すべて「言葉」が適切に使われていないために起こっているようだ。

そこで、これらの「問題語(特に抽象語)」を一つずつ取り上げて、正確な意味と誤った使い方を考えてみたくなった。「誤った問題語事典」、「悪魔の言葉、天使の言葉」などと表題をつけて進行中。キリはないが、怪しげな占い師の断言・断定よりはマシだろう。

### <エネルギー = 生 = 暴力か? >

また最近では、あらゆる社会現象・事件の意味を解くキーワードとして、「暴力」に注目している。例えば、政治家の暴力、公務員の暴力、経済の暴力、報道(マスコミ)の暴力、愛という名の(親による、教師による、恋人による)暴力、言葉の暴力、自然(動物、植物、台風、火山、地震)の暴力、宇宙の暴力性など。人間の存在自体も暴力的に思われる。

これらは、かなり視覚化できるものが多く、よく絵の素材になっている。

### 平成12(2000) 61歳……………「振り返れば～？」

6月、父が入院との知らせで、小川敦子が茅ヶ崎に帰った。このため、第三アートセンターの新規の仕事は中止し、現在発売中の書籍の印税のみに頼ることにした。今でも「編集者」に対して、投書や問い合わせがあるので、会社を辞めるわけには行かない。

……………  
このころから、市内の野村総合学習で、受験高校生に「論文指導」を始めた。野村夫婦、仁科夫婦による学習塾だった。論文の講義は多くても6～7人なので、ていねいに添削できた。また、悩み多き青年と話すのは、刺激になった。

ちなみに、野村夫妻は鎌倉出身で、NGOの海外ボランティア活動や教師をしたのち、縁あって、兄・祐之の土地を借りて自然農業を実践していた。仁科夫妻も神奈川県出身で、野村夫妻に共感して数年前、中村市にやって来た。彼らは大方町馬荷の山中に建てられたログハウスで暮らしていた。みな、善良の人たちでパーティー好きなよき仲間である。

.....

6月、『水紋 - 八幡太郎会遺暦記念文集』 128pp. 非売品。八幡小学校6年5組卒業生60人中、30人および大和(渡辺)利子・内田太郎先生の「回想録」を収録したものの(卒業くらい半世紀間、毎年「太郎会」が続いていた)。 累計 291冊

4月、同窓会幹事(西宏和、吉原<清水>昭子)から、電話で「皆が遺暦になるのだから、何か記録をまとめたい」という意見を聞いた。私が「文集を作るなら、編集技術を提供しようか」と提案したところ、急きょ、「秋の同窓会に間に合わせよう」と話が進んだ。

直ちに、同窓会全員に電話・ファックス・手紙で「回想原稿」やアンケートを依頼した。3人であらゆるコメント・資料を集めまくり、すべて高知の私に集積した。これらを片っ端からワープロで打ちまくり、電話の一言でも「カコミ記事」にし、「6年間の行事・事件年表」を付すなどした。これらを、東京の印刷所(教育基礎研究所)に郵送して、印刷・製本した。

『水紋』の書名は、卒業記念文集『あしあと』にならって、私が命名したものである。「企画から完成までほぼ2か月」は、私の編集歴からみても最短記録だった。私への感謝を表すためか、「神戸で集まるから、必ず出席するように」とのお願い(命令)があった。同窓会嫌いで、「電車には乗らない」と決めていた私も、やむなく出席することにした。

.....

10月4~6日、神戸(舞子ピラ)で、小学校の同窓会(太郎会)に参加した。途中、久しぶりに履いた革靴がぼろぼろに崩れてしまうというハプニングもあった(皮革は腐るものらしい)。大和利子先生、内田太郎先生、西の母も含めて、20名が参加。当然、「超人的な文集作りのスピード」が話題になった。面目を施す。

2泊目は、同級生・西宏和宅。帰路、高知駅で地震発生、数時間停車のトラブルも。

**出来事 = 介護保険制度開始 / 三宅島噴火 / 5月、プーチン、ロシア大統領に**

.....

**平成13(2001) 62歳.....「田舎はシュール」**

読書のかたわら、徹底して、ベニヤ板の「連続絵」を描き始めた。「生の表象」32点など。この「連続絵」とは、初めは1曲数双の屏風絵や襖絵みたいなものだったが、イメージが浮かぶにつれて、自然に枚数が増えていったのである。

海や山で、絵の素材になる貝、サンゴ、花、森、雲、波、などをよく撮影し、画面に自由に点在させた。結果的に、シュール(超現実主義的)な絵になっていった。

**出来事 = 小泉内閣スタート / 国内初のBSE牛 / 9月11日、NY同時多発テロ (このテロの原因・きっかけはアメリカにある。つまり、アメリカの暴力(自由競争主義やグローバリズム)に怒った、イスラムの過激派が報復したものである。ここに、原理主義者たちによる“暴力の作用反作用”が始まった)。**

世界が「暴力VS暴力」という「仁義なきテロ時代」に突入したため、私の絵のテーマも、人間の暴力性、生と死、エネルギーのベクトルなどが多くなった。

このさい、アメリカ科の卒業生として、アメリカ人の心に潜む「自由・正義と暴力」の関係を述べておく。歴史の浅い「大国」は、世界の新興ヤクザなのだろう。

彼らの歴史的な心の支えは、建国以来、西部開拓者の魂である。そして、英国から独立し、インディアン虐殺や土地・資源の収奪を正当化するために、「自由・正義」が使われてきた。真珠湾報復のために原爆を投下したことも、911テロ報復のためにイラク国家を壊滅させたことも、「俺は自由と正義を守る裁判官だ！ やられたら、100倍返ししてよい」という論理に基づいている。

いまや彼らは“世界の騎兵隊・保安官”、あるいは、世界を開拓しようとする“自由競争の旗手”だ。他国の歴史や文化を理解できる国民ではないから、環境破壊なんのその、だ。ノーテンキな米人の辞書に、デリカシーという言葉はない。

.....  
**平成14(2002) 63歳.....「現実と空想の間」**

『角川書店 / 私たちが書く憲法前文』(私の私案は3ページ分収録) 304pp。1300円。監修:大塚英志。

これは、平成13年から翌年にかけて、『中央公論』誌上で行われた「読者による”夢の憲法をつくろう”」に応募した投稿を選考し、まとめたものである。

面白かったのは、県立中村高校の生徒15人の私案も収録されていたこと。ほとんどが情緒的・作文的・感想文的・詩的なものばかりだった。おそらく、ある教師が授業で書かせたものをまとめて投稿したのだろう。同高校の塾生に聞いたが、関心はなかった。

.....  
7月、庭の崖を整備して、ベニヤ板に描いた「連続絵」を約40枚並べられるような「陳列用の塀」を完成(約200万円)。それでも、『名鹿幻想』54枚は並べきれなかった。

.....  
**出来事 = 9月、日朝首脳会談(小泉と金)。拉致されていた5名帰国。**

.....  
**平成15(2003) 64歳.....「醜も美なり」**

このころ、雪舟の水墨画をモチーフにして、超現実的な「カラー連続絵」を描き始めた。この『雪舟へのオマージュ』は、約20枚。私が好きな老子の言葉を借用しながら、コメントしてみた。かくして、私の「連続絵」は「読んだり考えたりしながら観る絵」になりつつある。

**出来事 = イラク戦争。4月13日、フセイン政権崩壊 / 25日、六本木ヒルズ、オープン / 28日、株価1万円を切る(バブル崩壊後の最安値)。**

.....  
**平成16(2004) 65歳.....「さよなら友人たち」**

1月2日、双海の西尾兼義宅で新年会飲み会(西尾孜郎も)。帰宅途中、酒気帯び運

転で捕まった。罰金15万円。2月9日から5月9日まで、免停90日。

野村総合学習解散。仁科夫婦は、京都・宮津で教員採用され、移転。野村夫婦は鎌倉に帰ることになった。その「ついで」に、私の絵や著書をインターネットに収録するという作業が始まった。4月から撮影開始。このワープロは、彼からもらったパソコンで打っている。

出来事 = イラクに自衛隊派遣 / アテネ・オリンピック / 高知競馬ハルウララ連敗で人気 / 12月、紀宮と黒田慶樹の婚約。

## パソコンとハンディカムと絵画の時代 .....

インタープレス・ジャパン野村氏の指導と協力により、それまでのワープロ作業をパソコンに切り替えた。また、ハンディカムとパソコンプリンターを利用して、絵の素材(植物、花、ヌード、波、雲など)を撮影・印刷するなど、新しい映像生活が展開し始めた。

なお、インターネットやCD作成は不得意なので、すべて野村氏に依頼している。いまさらウイルスやネット犯罪、あるいは無駄話(チャット、ブログ)に神経を使うヒマはない。

### 平成17(2005) 66歳.....「ネット社会への誘い」

野村氏の提案により、40年前の処女作『燃えろ！ 白いアフリカ』をインターネット販売することになり、当時の資料や写真を大量追加・再編集して、CDを作成。自著第8作。

『インタープレス・ジャパン発売 / CD・アフリカ大陸オートバイ冒険旅行』 本体価格 1600円。2007年現在、アマゾンで発売中。 累計 292冊

『八重洲出版 / 別冊モーターサイクリスト』7月号から、翌年の5月号まで、11回、「アフリカ大陸2000km冒険旅日記 66 ホンダCL 300と共に」を連載。

これも、野村氏の斡旋によるもので、上記CD原稿の一部を紹介したものである。連載中、モーターサイクリストの編集者(加藤拓朗君。ナイフ投げの名人)が、BMW1200に乗って我が家へ。一泊し、私の絵などを取材して、2006年1月号にカラー記事を掲載した。題して、「心の“目印”を求めて 高知へ 別府へ」。

出来事 = 4月、ライブドアとフジテレビ買収和解劇 その後、堀江、村上の逮捕・裁判へ / 7月、ロンドン、バリ島で同時爆破テロ / JR西日本で脱線事故 / 高知県宿毛駅に特急列車衝突 / このころ、少年少女の残虐・猟奇事件続発。

### 平成18(2006) 67歳.....「楽しい孤独」

仮題『Joshua Okiのシュール画集』として、野村氏がCDを製作開始。

『名鹿幻想』の続きとして、『四万十川幻想』を描き始めた。この年、約33点。男性の半身像を中心にして、左に「陰の世界(暴力、死、戦争など)」を、右に「陽の世界(性、生、真善美など)」を描き始めた。この年、『陰と陽』約27点。その他、『竜』3点、『裸の自画像』2点、など。

出来事 = 2月、トリノ五輪で荒川静香金メダル / 6~7月、ワールドカップ独大会 / 8月、冥王星が惑星から外れる / 9月、秋篠宮に長男誕生。

平成19(2007) 68歳……………「整理すること」

4月、株式会社第三アートセンター解散の手続きに入った。ひとりで法務局、税務署、県事務所、市役所などを回る。30年近く自分で育てた会社だが、いまや、印税収入が「均等割りの税金」や経理費用を下回っては、やむをえない。

時には、税法に無知で誤解が多い税務署員と対決することがあった。結果、税務署員が私にペコペコ謝るという不思議な体験をした。田舎ならでは、かも。

ついでに、かねてより、四万十市の土地行政に疑問があったので、澤田五十六市長(大学の後輩)と面談した。「昔、県や市が建設した道路が登記されていない。このため、売買や相続のたびに揉め事が多発している。善処せよ！」とりあえず、今年度中に私の土地を緊急測量・登記することに決まった。やれやれ。

父・為由の50回忌。最後の法事となった。5月4日(私の68歳誕生日)、娘2人(佐々木千絵、布施久美)が、夫と共に参加。計5名で双海の西尾兼義・栄子宅で飲み会。3年後には、母・千枝の50回忌になる。私の感慨 = 親爺が死んだ73歳までは生きてやる！

5月10日、自動二輪免許の更新(私は四輪免許がない)。次回の更新時は70歳を超えるので、実技テストや認知症の検査があるとか。年寄り扱いされるたびに、もっと面白い絵を描いてみたいと思う。なお、昨年末から約半年間、禁煙している。1日50本近くを50年間吸っていたのに、止められるとすれば、まだ何かに挑戦できるという証しかもしれない。

出来事 = 新内閣に安倍首相と麻生外相(岸信介と吉田茂の亡霊が登場。日本政治の空回り現象か、懲りない・動かない・原理原則のない日本人なのか?) 長生きしてみるものだ、と思った事件が1日に3件起こった(2007年5月15日)。「性・生・死」の常識は、常に“進化”し続けている。東大教授が痴漢を働いた。17歳の高3生が、実母の首を切断して、バッグに入れて自首をした。赤ちゃんポスト・オープンの日、3歳男児が入られ、“捨て子ポスト”になった!(その翌日、21歳の夫婦が1歳男児をオートバイのヘルメット入れに入れて殺害!)

< 2007年以降の予測 >

事故・病気・リハビリ時代へ? … > > 続く



2006年(67歳)、我が家の庭で。BMW 1200。